新庁舎整備事業　倉庫Ⅱ建設工事

2019年3月

香山壽夫建築研究所

図面番号	図面名称	縮尺
A001	図面リスト	–
A002	設計概要・付近見取図	–
A003	敷地求積図	1/250
A004	建築工事特記仕様書　1	–
A005	建築工事特記仕様書　2	–
A006	建築工事特記仕様書　3	–
A007	建築工事特記仕様書　4	–
A008	建築工事特記仕様書　5	–
A009	建築工事特記仕様書　6	–
A010	建築工事特記仕様書　7	–
A011	建築工事特記仕様書　8	–
A012	建築工事特記仕様書　9	–
A013	建築工事特記仕様書　10	–
A014	建築工事特記仕様書　11	–
A101	配置図	1/250
A102	求積図/地盤面算定	–
A103	平面図・天井伏図・立面図	1/50
A104	断面図・屋根伏図	1/50
A105	建具表	1/100
参001	現況レベル図/仮設計画図(参考図)	1/400

図面番号	図面名称	縮尺
S001	特記　1	–
S002	特記　2	–
S003	特記　3	–
S004	構造標準図　1	–
S005	構造標準図　2	–
S006	構造標準図　3	–
S007	構造標準図　4	–
S008	構造標準図　5	–
S009	構造標準図　6	–
S010	構造標準図　7	–
S011	構造標準図　8	–
S012	構造標準図　9	–
S013	構造標準図　10	–
S101	伏図　1	1/50
S102	伏図　2	1/50
S103	軸組図　1	1/50
S104	断面リスト	1/50
S105	詳細図	1/50

図面番号	図面名称	縮尺

図面番号	図面名称	縮尺

新庁舎整備事業　倉庫Ⅱ建設工事

KT2-A001

名称　図面リスト

縮尺　–　日付　2019.2　査図

一級建築士事務所第12399号(有)香山壽夫建築研究所　東京都文京区本郷2-12-10UT本郷3F　一級建築士第65408号　佐伯和俊

構造：一級建築士事務所 東京都知事登録 第56306号 株式会社 KAP　一級建築士第341678号(構造設計一級建築士第9490号)　萩生田秀之

建築設計概要書

□工事名称・その他

工事名称	新庁舎整備事業　倉庫Ⅱ建設工事
建物用途	倉庫　（用途区分08520）

□敷地

敷地所在地	京都府船井郡京丹波町蒲生蒲生野272番地14
敷地面積	2800.19㎡
用途地域	都市計画区域　非線引き
防火地域指定	法22条地区域
地区計画	－
高度地区	なし
建ぺい率	法定60%
容積率	法定200%
道路斜線	勾配1.25　適用距離30m
隣地斜線	20m+勾配1.25
北側斜線	なし
日影規制	なし
壁面後退	－
前面道路	国道9号線（幅員13m）

□規模

階数	地上1階	
平均地盤面高さ	GL+1.021m	
1FL	GL+0.1m	
各部の高さ	軒高	2.889m（GL+3.910m）
	最高高さ	3.269m（GL+4.290m）
駐車台数	－	

□構造

構造形式	壁式RC構造
構造種別	RC造＋木造
基礎種別	直接基礎

□その他関連規定

建築基準法

消防法

建築基準法施行条例（京都府）

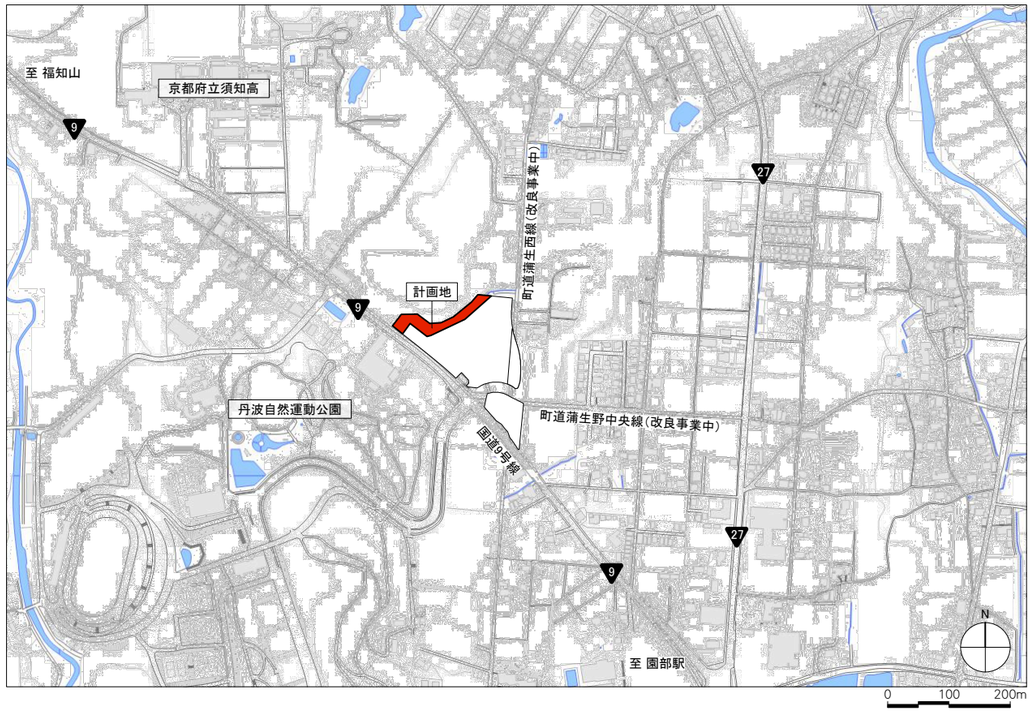
高齢者、障害者等の移動等の円滑化の促進に関する法律（バリアフリー法）

京都府福祉のまちづくり条例

京都府再生可能エネルギーの導入等の促進に関する条例

駐車場法

□付近見取図　1/5000（A3）



□面積

	申請部分（m2）	申請以外の部分（m2）	合計（m2）	敷地面積に対する割合	その他
建築面積	226.80	0	226.80	建ぺい率 8.10%　≦　60%	
延床面積	226.80	0	226.80	容積率 8.10%　≦　200%	

□各階床面積

階別	申請部分（m2）	申請以外の部分（m2）	主要階高（m）	天井高（m）	主要用途・備考
1階	113.40	0	－	2.750～3.950	倉庫
1階	113.40	0	－	2.750～3.950	倉庫

□別途工事

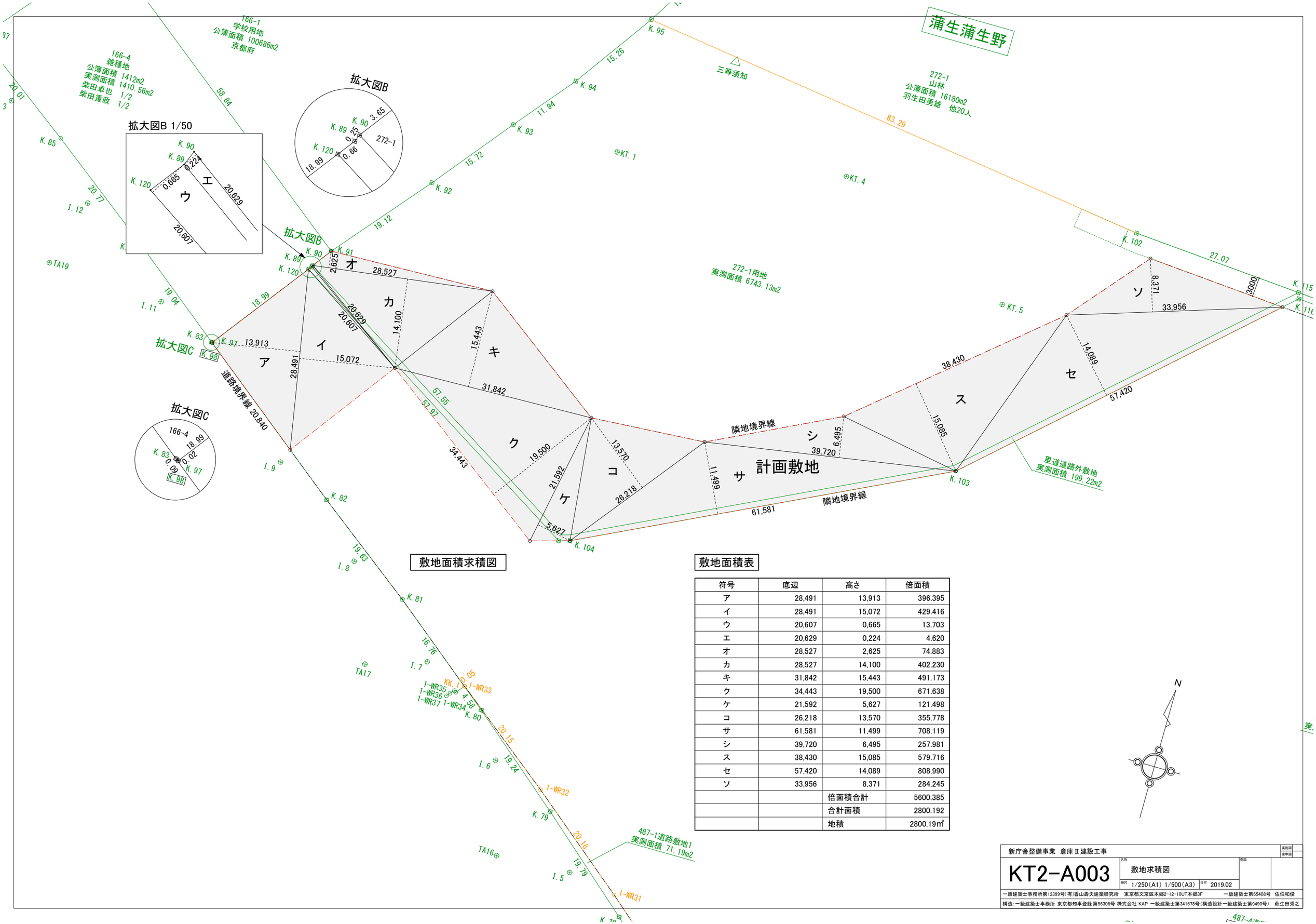
電気設備工事、機械設備工事

□その他

新庁舎整備事業　倉庫Ⅱ建設工事			実施図 確申図
KT2−A002	名称 設計概要・付近見取図	番図	
	縮尺　日付 2019.02		

一級建築士事務所第12399号(有)春山喜夫建築研究所　東京都文京区本郷2-12-10UT本郷3F　一級建築士第65408号　佐伯和俊

構造：一級建築士事務所 東京都知事登録第56306号 株式会社 KAP 一級建築士第341678号（構造設計一級建築士第9490号）　萩生田秀之



符号	底辺	高さ	倍面積
ア	28,491	13,913	396.395
イ	28,491	15,072	429.416
ウ	20,607	0,665	13.703
エ	20,629	0,224	4.620
オ	28,527	2,625	74.883
カ	28,527	14,100	402.230
キ	31,842	15,443	491.173
ク	34,443	19,500	671.638
ケ	21,592	5,627	121.498
コ	26,218	13,570	355.778
サ	61,581	11,499	708.119
シ	39,720	6,495	257.981
ス	38,430	15,085	579.716
セ	57,420	14,089	808.990
ソ	33,956	8,371	284.245
		倍面積合計	5600.385
		合計面積	2800.192
		地積	2800.19㎡

新庁舎整備事業 倉庫Ⅱ建設工事

実施図
確申図

KT2-A003

名称 敷地求積図

縮尺 1/250(A1) 1/500(A3)

日付 2019.02

一級建築士事務所第12399号(有)香山壽夫建築研究所 東京都文京区本郷2-12-10UT本郷3F 一級建築士第65408号 佐伯和俊
構造:一級建築士事務所 東京都知事登録 第56306号 株式会社 KAP 一級建築士第341678号(構造設計一級建築士第9490号) 萩生田秀之

特記仕様書

1. 本特記仕様書は、本工事における建築関連工事に適用する。

2. 本特記仕様書における採用事項

a. 項目欄は番号等に ◯ 印を附したものを適用する。

b. 項目欄に ◯ 印を附し特記事項欄に ・印を附していない場合は標準仕様書による。

c. 特記事項は ・印を附したものを適用する。但し ・印の付かない場合は※印の附した事項を採用する。

・ 印と ※ 印を附した場合は共に適用する。

3. 本特記仕様書に記載なき事項については下記による。

・公共建築工事標準仕様書(建築工事編)平成28年版 (国土交通省大臣官房官庁営繕部監修)
・建築工事標準詳細図 平成28年版 (国土交通省大臣官房官庁営繕部監修)
・敷地調査共通仕様書 平成27年版 (国土交通省大臣官房官庁営繕部監修)
・建築鉄骨設計基準及び同解説 平成10年版 (建設大臣官房官庁営繕部監修)
・公共建築改修工事標準仕様書 平成28年版 (国土交通省大臣官房官庁営繕部監修)
・公共建築木造工事標準仕様書 平成28年版 (国土交通省大臣官房官庁営繕部監修)
・公共建築工事標準仕様書(電気設備工事編)平成28年版 (国土交通省大臣官房官庁営繕部監修)
・公共建築工事標準仕様書(機械設備工事編)平成28年版 (国土交通省大臣官房官庁営繕部監修)

4. その他事項
・各項目欄の番号(例:1.4 ○○○)は標準仕様書の番号(章番号を除く)に照合する
・各項目欄の番号(例:1.* ○○○)は標準仕様書の番号(章番号を除く)に該当しない項目とする

章	項 目	特記事項
1章 一般共通事項	1.4 工事実績情報登録	登録: ・適用 ・不適用
	1.* 建築基準法の風圧	基準風速: ・Vo=32 (m/s) 平成12年建告第1454号
		地表面粗度区分: ・Ⅰ ・Ⅱ ・Ⅲ ・Ⅳ
	・積雪に対する性能	積雪の単位荷重: 20N/㎡以上 垂直積雪量: 0.5m
	3.3 電気保安技術者	技術者の適用: ・適用する ・適要しない
	3.5 施工条件	施工順序等の制約: ・無し ・有り(・現場説明書による ・図示 ・ 】
		工事車両の駐車場所: ・図示 ・現場説明書による ・
		資材、機材置場 : ・図示 ・現場説明書による ・
		発生土仮置場 : ・図示 ・現場説明書による ・
		その他の施工条件 : ・図示 ・現場説明書による ・
	3.11 発生材の処理等	・発注者への引渡発生材;
		・特別管理産業廃棄物;
		・リサイクル発生材;
	4.* 使用材料	・仮設材以外の全ての建築材料(仕上材、下地材、副資材)のホルムアルデヒド放散量はJIS等の材料規格において放散量が規定されている場合は原則としてF☆☆☆☆とする。但し使用予定材料にF☆☆☆☆が存在しない場合は監督員と協議のうえ決定する。
	5.9 化学物質の濃度測定	濃度測定: ・未実施 ・実施 化学物質濃度を下記のとおり測定し、厚生労働省が定める指針値以下であることを確認し報告すること。 測定対象物質: ・ホルムアルデヒド ・トルエン ・キシレン ・エチルベンゼン ・スチレン ・図示 ・ 測定方法: ・簡易法 ・パッシブ型採取機器 ・測定バッジ; 測定対象室: ・図示 ・ 測定箇所数: ・図示 ・ 箇所 ・厚生労働省の標準的測定方法による場合の測定者は、環境計量証明事業所として登録を行っている者、又は作業環境測定事業所の有機溶剤の登録を行っている者とする。
	6.1 設計図	提出部数 : ※各4部 種類 : ※実施設計図一式(A3原稿2つ折り製本)
	7.1 完成時の提出図書	完成図 : ・必要 ・不要 保全に関する資料: ・必要 ・不要
	7.2 完成図	提出部数: ※各4部 ・ 部 種類: ※表1.7.1 ・一般図 ・実施設計図一式 記入内容: ※表1.7.1 ・図示 ・ 提出要領: ・A3原稿2つ折り製本 ・A3版原図(CAD作図による) ・CADデータ 施工計画書: ・監督員の承諾を受けたもの ・ 施工図: ・A3原稿2つ折り製本 ・A3拡縮版第2原図 ・CADデータ ・監督員の承諾を受けたもの ・
	7.3 保全に関する資料	・保全に関する資料 提出部数: ※各2部 ・ 部

章	項 目	特記事項
	・完成写真	下記のものを監督職員に提出する。ただし、原板は撮影業者の保管とする。 分類・規格 / 撮影箇所数 / 提出部数 / 原板の大きさ(mm) ・カラー ※キャビネ版 ※べた焼: 外部(5)内部(5) / ・3 ※2 ・6 / ※100×125以上 ・ ・カラー半切木製パネル 324×400(mm): 外部( )内部( ) / ※2 ・ ・電子データ: 外部(5)内部(5) / ※2 ・ / ※200万画素以上 ※300dpi以上 100×125以上の原板を使う場合は、監督職員にあらかじめべた焼を提出し確認を受ける。 電子データは、RGB(フルカラー)、JPEG形式最高画質とし、CD-Rにて提出とする。 撮影業者 ※監督員の承諾する撮影業者 (ただし、建築完成写真撮影の実績のある業者とする。)
	・設備工事との取合い	設備機器の位置、取合い等の検討できる施工図を提出して、監督職員の承諾を受ける。
	・工事写真	「営繕工事電子納品要領」による。
	・工事報告書	工事の進捗度表、作業員の出面報告、工事箇所図および工事状況写真などを記載した工事報告書を月末ごとに提出する。 検査、または監督職員の指示により命じられた手直し工事は、手直し前、中、後が判断できる写真を撮影し報告書を添えて提出する。
2章 仮設工事	3.1 監督員事務所、受注者事務所等	監督員事務所の設置: ・必要 ・不要 受注者事務所の設置: ・必要 ・不要
	3.* 工事用水	構内既存の施設: ・利用できない ・利用できる【・有償 ・無償】
	3.* 工事電力	構内既存の施設: ・利用できない ・利用できる【・有償 ・無償】 ・動力以外利用できる【・有償 ・無償】
	3.* 仮囲い	・図示
	3.* 落下物、飛散物等による危害防止	・工事現場からの落下物、飛散物による危害防止は下記又は同等以上の措置をする。 ・防護鉄網 ・防護シート ・防護棚 ・防音シート ・防音パネル ・その他;
	3.* 洗車設備	・洗車ピット(幅3m×長さ5mx厚さ20cm 程度の土間コンクリート、給排水設備共) ・洗車装置(高圧洗浄装置程度) ・
	3.* 仮排水	・既設排水溝や排水管、会所等の撤去時には、仮設の排水設備を設け、排水上支障のないようにする。
3章 土工事	2.3 埋戻し及び盛土	種別: ・A種 ・B種 ・C種 ・D種 ・搬入まさ土(砂礫等の混入のない良質なものとし、水締め、機器による締固めとする)
	2.5 建設発生土の処理	・現場説明書による ・構外搬出適切処理 ・構内指定場所堆積 ・構内指定場所敷均し ・他現場に搬入( ) ・ ・指定処分地(
4章 地業工事	1.* 地業工事	・本章の事項で ◯ 印の無いものは構造特記仕様書による
		2. 試験及び報告書
	2.2 試験杭	試験杭の位置、本数、載荷荷重: ・図示 ・
	2.3 杭の載荷試験	載荷試験: ・水平試験 ・鉛直試験 ・ 試験杭の位置、本数、載荷荷重: ・図示 ・ 試験方法: ・図示 ・ 試験報告書の記載事項等: ・図示 ・
	2.4 地盤の載荷試験	載荷試験: ・平板載荷試験 ・ 試験の位置、載荷荷重: ・図示 ・ 試験方法: ・図示 ・ 試験報告書の記載事項等: ・図示 ・
		3. 既製コンクリート杭地業
	3.1 適用範囲	工法の適用: ・打込み工法(4.3.3) ・セメントミルク工法(4.3.4) ・特定埋設杭工法(4.3.5) ・図示
	3.2 材 料	材料の強度等による区分: ・ 杭の寸法、継ぎ手の箇所数、杭先端形状: ・図示 ・

章	項 目	特記事項
4章 地業工事	3.3 打込み工法	杭の設計支持力: ・図示 ・ 施工法の種類: ・図示 ・ プレボーリングの掘削深さ及び径: ・図示 ・深さ; m 径; m 試験杭の推定支持力の算定方法: ・図示 ・ 杭の支持地盤への根入れ深さ: ・図示 ・ 杭の水平方向の位置精度: ・図示 ・100mm以内 ・
	3.4 セメントミルク工法	支持地盤の位置、種類: ・図示 ・ アースオーガーの支持地盤への掘削深さ: ・図示 ・ 杭の支持地盤への根入れ深さ: ・図示 ・ 杭の水平方向の位置精度: ・図示 ・100mm以内 ・
	3.5 特定埋設杭工法	施工法の種類: ・図示 ・ 杭の水平方向の位置精度: ・図示 ・100mm以内 ・ 支持地盤の位置、種類: ・図示 ・ 杭の継手の工法: ・アーク溶接 ・無溶接継手(工法;) 杭頭の処理法: ・図示 ・
		5. 現場打ちコンクリート杭地業
	5.1 適用範囲	工法の適用: ・アースドリル工法(4.5.4) ・リバース工法(4.5.4) ・オールケーシング工法(4.5.4) ・場所打ち鋼管コンクリート杭工法(4.5.5) ・拡底杭工法(4.5.5) ・図示
	5.3 材料その他	帯筋の加工、組立: ・図示 ・ 鉄筋の最小かぶり厚さ: ・図示 ・60mm ・ mm セメントの種類: ・普通ポルトランドセメント ※高炉セメントB種 ・混合セメント ・図示 コンクリートの設計基準強度: ・Fc=21N/mm2 ・Fc=24N/mm2 ・図示 コンクリートの種別: ・A種 ・B種 ・図示 コンクリートの構造体強度補正値(S): ・図示 ※3N/mm ・
	5.4 アースドリル工法,リバース工法,オールケーシング工法	支持地盤の位置、種類: ・図示 ・ 杭孔壁の超音波測定: ・行なわない ・行う(杭の水平方向の位置精度: ・図示 ・100mm以内 ・
	5.5 場所打鋼管コンクリート杭工法、拡底杭工法	杭の水平方向の位置精度: ・図示 ・100mm以内 ・
		6. 砂利、砂、捨てコンクリート地業等
	6.3 砂利及び砂地業	砂利及び砂地業の厚さ: ・図示 ※60mm ・100mm ・120mm ・150mm ・50mm
	6.4 捨てコンクリート地業	捨てコンクリートの厚さ: ・図示 ※50mm ・ mm ・120mm ・150mm ・
	6.5 床下防湿層	床下防湿層の適用: ・適用しない ・適用する ・図示 (防湿ポリエチレンフィルムt0.1) 床下防湿層の範囲: ・図示 ・全て
	7.* 地盤改良	・現場発生土を再利用する。 改良方法 ・図示 セメント及びセメント系固化材を使用した改良土を使用する場合、六価クロム溶出試験を実施し、土壌環境基準を勘案して必要に応じ適切な措置を講じること。 また、再利用しようとする場合は、基準以下であることを確認すること。 「建築物のための改良地盤の設計及び品質管理指針」((一財)日本建築センター)を参考とすること。 なお、試験方法は、セメント及びセメント系固化材を使用した改良土等の六価クロム溶出試験要領によるものとする。
5章 鉄筋工事	1.* 鉄筋工事	・本章の事項は構造特記仕様書による
		2. 材 料
	2.1 鉄 筋	鉄筋の種類: ・SR295 ・SD295A ・SD295B ・SD345 ・SD390 ・図示 ・
	2.2 溶接金網	溶接金網の寸法、径: ・φ6x150x150 ・φ6x100x100 ・φ4.5x50x50 ・図示 ・
	3.4 継手及び定着	継手の種類: ・重ね継手 ・ガス圧接継手 ・機械継手 ・溶接継手 継手の位置: ・図示 ・ 柱主筋の重ね継手長さ: ・40d(50d) ・図示 ・ 梁主筋の重ね継手長さ: ・40d(50d) ・図示 ・ 耐力壁鉄筋の重ね継手長さ: ※40d(50d) ・図示 ・ 先組み工法等の継手の位置: ・図示 ・ 鉄筋の定着長さ: ・標準仕様書表5.3.4による ・図示 ・
	3.5 鉄筋のかぶり厚さ及び間隔	土に接する柱、梁、スラブ及び壁の鉄筋のかぶり厚さ(軽量コンクリートの場合): ・図示 ・40mm ・50mm ・60mm ・ 塩害を受ける恐れのある部分等の鉄筋のかぶり厚さ: ・図示 ・ 特殊な鉄筋継手のあき寸法: ・図示 ・

新庁舎整備事業 倉庫Ⅱ建設工事

実施図 ● 確申図

KT2-A004

名称: 建築工事 特記仕様書1

縮尺 – 日付 2019.02

一級建築士事務所第12399号(有)香山壽夫建築研究所 東京都文京区本郷2-12-10UT本郷3F 一級建築士第65408号 佐伯和俊
構造:一級建築士事務所 東京都知事登録第56306号 株式会社 KAP 一級建築士第341678号(構造設計一級建築士第9490号) 萩生田秀之

章	項 目	特記事項
5章 鉄筋工事	3.7 各部配筋	各部の配筋: ・図示 ・
	4.9 圧接完了後の試験	抜取試験の方法: ※超音波探傷試験 ・引張試験 ・
	5.2 機械式継手	機械式継手の種類: ・図示 ・
	5.3 溶接継手	溶接継手の工法: ・図示 ・
		品質の確認方法: ・図示 ・
		不良継手部の修正方法: ・図示 ・
6章 コンクリート工事	(1.*) ｺﾝｸﾘｰﾄ工事	(・)本章の事項で ◯ 印の無いものは構造特記仕様書による
	2.1 ｺﾝｸﾘｰﾄの種類	2. コンクリートの種類及び品質
	2.2 ｺﾝｸﾘｰﾄの強度	気乾単位容積質量による種類: ・普通ｺﾝｸﾘｰﾄ(下表による) ・図示

施工部位	設計基準強度(N/mm2)	備 考
・構造躯体(基礎～ 階)	30	
・構造躯体(階～ 階)	24	
・構造躯体(階～ 階)	21	
・捨てｺﾝｸﾘｰﾄ	・18 ・21	

コンクリートの要求性能等による種類: ・図示 ・
コンクリートの種別: ※I類 ・㈼類
気乾単位容積質量による種類: ・軽量ｺﾝｸﾘｰﾄ(下表による) ・図示

施工部位	設計基準強度(N/mm2)	備 考
・ﾙｰﾌﾊﾞﾙｺﾆｰ防水押え	・18 ・21	
・屋上防水押え	・18 ・21	
・浴室防水押え	・18 ・21	

コンクリートの要求性能等による種類: ・図示 ・
コンクリートの種別: ※I類 ・㈼類
特殊な要求性能のコンクリートの適用: ・図示 ・
大臣認定を受けたコンクリートの適用: ・図示 ・

2.4 ﾜｰｶﾋﾞﾘﾃｨｰ及びｽﾗﾝﾌﾟ — スランプ: ※標準仕様書表6.2.2による ・図示 ・

(2.5) 構造ｺﾝｸﾘｰﾄの仕上り — 打放し仕上げの種別(合板せき板を用いる場合)

施工部位	種別	備 考
(・) 外壁	A種	
(・) 基礎立上がり	A種	

3. コンクリートの材料及び調合

3.1 ｺﾝｸﾘｰﾄの材料 — セメントの種類: ※普通ﾎﾟﾙﾄﾗﾝﾄﾞｾﾒﾝﾄA種 ※混合ｾﾒﾝﾄA種 ・高炉ｾﾒﾝﾄB種
・ﾌﾗｲｱｯｼｭｾﾒﾝﾄB種
高炉セメントB種の適用箇所: ・図示 ・基礎 ・地中梁 ・
フライアッシュセメントB種の適用箇所: ・図示 ・
骨材の種類: ※JIS A 5308(付属書A)の骨材 ・規定外の骨材:
細骨材の種類: ※JIS A 5308(付属書A)の細骨材 ・規定外の細骨材:
骨材のアルカリシリカ反応性による区分: ※A ・B
混和剤: ・AE剤 ・AE減水剤 ・高性能AE減水剤 ・
混和材: ・ﾌﾗｲｱｯｼｭ ・高炉ｽﾗｸﾞ微粉末 ・膨張剤 ・

3.2 ｺﾝｸﾘｰﾄの調合 — 混和材料の使用方法等: ・図示 ※製造ﾒｰｶｰ資料に基づき承諾

6. コンクリートの工事現場内運搬並びに打込み及び締固め

(6.3) 打継ぎ — 打継ぎ目地の見付寸法: ・図示 ・25mm ・(20)mm ・15mm ・

8. 型 枠

(8.2) 一般事項 — 外部に面する打放し仕上げの増打厚さ: ・25mm ・(20)mm ・15mm ・
ひび割れ誘発目地の位置、形状、寸法: ・下表による (・)図示 ・

施工部位	位置	形状	寸法(見付x深さ)
・片持ちスラブ	・図示	・両転び ・片転び	20mmx15mm
・外部開口部廻り	・図示	・両転び ・片転び	15mmx12mm
・壁タイル張り仕上面	・図示	・両転び ・片転び	15mmx10mm

6章 コンクリート工事

8.3 材 料 — 型枠の材料等: ・下表による ・図示 ・

種類	種別・厚さ	材質
・合板	※「ｺﾝｸﾘｰﾄ型枠用合板のJAS」・12mm	※複 合
	・「ｺﾝｸﾘｰﾄ型枠用合板のJAS」・15mm	※南洋材
・床型枠用鋼製ﾃﾞｯｷﾌﾟﾚｰﾄ		・針葉材
鋼材の形状及び寸法: ・図示 ・		

断熱材を兼用した型枠材: ・使用する【使用箇所: ・図示 ・ 】
MCR工法: ・適用する【適用箇所: ・図示 ・ 】
スリーブ: ※標準仕様書6.9.3(i)による ・図示
・硬質塩化ﾋﾞﾆﾙ管 ・溶融亜鉛めっき鋼管 ・鋼管 ・つば付き鋼管

8.3 材 料 — スリーブ: ・つば付き鋼管 ・紙ﾁｭｰﾌﾞ

10. 軽量コンクリート

10.1 一般事項 — 土に接する軽量コンクリートの使用: ・使用する【使用箇所: ・図示 ・ 】
水に接する軽量コンクリートの使用: ・使用する【使用箇所: ・図示 ・ 】
軽量コンクリート種類: ・下表による ・図示 ・

施工部位	種類	備 考
	・1種 ・2種	
	・1種 ・2種	
	・1種 ・2種	

10.2 材料及び調合 — 所要スランプ: ※21cm以下 ・18cm以下 ・図示 ・

11. 寒中コンクリート

11.2 材料及び調合 — 適用期間: ・図示 ・11月 日～4月 日まで
積算温度の採用: ・採用する ・採用しない

12. 暑中コンクリート

12.2 材料及び調合 — 構造体強度補正値(S): ※6 N/mm ・

13. マスコンクリート

13.2 材料及び調合 — セメントの種類: ・中庸熱ﾎﾟﾙﾄﾗﾝﾄﾞｾﾒﾝﾄ ・低熱ﾎﾟﾙﾄﾗﾝﾄﾞｾﾒﾝﾄ ・高炉ｾﾒﾝﾄB種
・ﾌﾗｲｱｯｼｭｾﾒﾝﾄB種 ・混合ｾﾒﾝﾄ
混合セメントの混和材: ・ﾌﾗｲｱｯｼｭ【・㈵種 ・㈼種】
・高炉ｽﾗｸﾞ微粉末(4000)
所要スランプ: ・8cm以下 ・12cm以下 ※15cm以下 ・

14. 無筋コンクリート

14.1 一般事項 — 適用箇所: ※標準仕様書6.14.1(d)による ・下表による ・図示

施工部位	設計基準強度(N/mm2)	スランプ
	・18 ・21	※15以下 ※18以下
	・18 ・21	

15. 流動化コンクリート

15.1 一般事項 — 流動化コンクリートの適用: ・適用する【使用箇所: ・図示 ・ 】

7章 鉄骨工事

1.* 鉄骨工事

1.3 鉄骨製作工場 — 製作工場のグレードは下記同等以上で大臣認定された工場とする:
・Sｸﾞﾚｰﾄﾞ ・Hｸﾞﾚｰﾄﾞ ・Mｸﾞﾚｰﾄﾞ ・Rｸﾞﾚｰﾄﾞ ・Jｸﾞﾚｰﾄﾞ
施工監理技術者: ・適用する ・適用しない

2. 材 料

2.1 鋼 材 — 鋼材の材質: ・下表による ・図示 ・

施工部位	材質(種類の記号)	備 考
・構造躯体	SS400／STKR400／BCR295	
・構造躯体(階～ 階)	SN400A SN400C	
・構造躯体(階～ 階)	SM490A SSC400	

7章 鉄骨工事

2.2 高力ﾎﾞﾙﾄ — 種類: ・ﾄﾙｼｱ型高力ﾎﾞﾙﾄ2種(S10T) ・JISの高力ﾎﾞﾙﾄ2種(F10T)
・溶融亜鉛めっき高力ﾎﾞﾙﾄ1種(F8T相当)
高力ボルトの径: ・図示 ・

2.3 普通ﾎﾞﾙﾄ — 普通ボルトの材料等: ※標準仕様書表7.2.3による ・
普通ボルトの径: ・図示 ・

2.4 ｱﾝｶｰﾎﾞﾙﾄ — 構造用アンカーボルトの材質: ・図示 ・SNR400A ・SNR400B ・SNR490B
建方用アンカーボルトの材質: ・図示 ・SS400 ・SS490 ・SS540
ねじの種類、等級の規格及び仕上げの程度: ※標準仕様書表7.2.3による ・

2.5 溶接材料 — 溶接棒等(標準仕様書表7.2.4)及びガス以外の溶接材料: ・図示 ・

2.6 ﾀｰﾝﾊﾞｯｸﾙ — 種類: ※建築用ﾀｰﾝﾊﾞｯｸﾙ(胴;割枠式、ﾎﾞﾙﾄ;羽子板ﾎﾞﾙﾄ) ・図示 ・
ねじの呼び等: ・図示 ・

2.7 ﾃﾞｯｷﾌﾟﾚｰﾄ — 構造床として使用するデッキプレートの材質、形状、寸法等: ・図示 ・
合成スラブとして使用するデッキプレートの材質、形状、寸法等: ・図示 ・
床型枠用鋼製デッキプレート:標準仕様書6.9.3(c)による
その他のデッキプレートの材質、形状、寸法等: ・図示 ・

2.8 ﾚｰﾙ — レールの規格、形状、寸法等: ・下表による ・図示 ・

施工部位	規格番号	形状、寸法	備 考
	JIS E 1101		・形状、寸法は図示
	JIS E 1102		
	JIS B 1251		

2.9 柱底均しﾓﾙﾀﾙ — モルタルの種類: ・図示 ・無収縮モルタル ・
無収縮モルタルの調合: ※標準仕様書7.2.9(b)(1)～(4)による ・図示 ・

2.10 材料試験等 — 引張りを受ける鋼板の試験: ・適用する ・適用しない ・図示 ・

3. 工作一般

3.2 工作図 — 現寸図は必要に応じて作成する
高力ボルト、普通ボルト、アンカーボルトのヘリ、ピッチ、ゲージ等:
・鉄骨工作標準図による又、同図面に記載なき事項は国土交通大臣官房官庁営繕部
「建築鉄骨設計基準及び同解説」による鉄骨設計基準図による。
・図示 ・

3.10 仮 組 — 仮組の実施: ・行わない ・行う

4. 高力ボルト接合

4.2 摩擦面の性能及び処理 — すべり係数試験の実施: ・行わない ・行う
試験の方法、試験片の摩擦面の状態: ・図示 ・

4.7 締付け — ﾎﾞﾙﾄ長さがねじの呼びの5倍をJIS型ﾎﾞﾙﾄのﾅｯﾄ回転法の回転量: ・120° ・

6. 溶接接合

6.3 溶接技能者 — 溶接技能者の技量付加試験: ・行わない ・行う

6.4 材料準備 — 開先の形状: ・図示 ・

6.7 溶接施工 — エンドタブの切除の有無: ・無し ・有り【切除の適用箇所: ・図示 ・ 】
スカラップの形状: ・図示 ・

6.11 溶接部の試験 — 完全溶け込み溶接部の超音波探傷試験: ・適用する ・適用しない
◎工場溶接の場合
製作工場の社内検査: ・行わない ※行う(全数検査を行い試験結果報告書を提出)
第三者機関による検査: ※行う ・行わない
AOQL: ・2.5% ※4.0%
検査水準: ・第1水準 ・第2水準 ・第3水準 ・第4水準 ・第5水準 ※第6水準
◎工事現場溶接の場合
第三者機関による検査: ※行う ・行わない
AOQL: ・2.5% ※4.0%

7. スタッド溶接及びデッキプレート溶接

7.8 ﾃﾞｯｷﾌﾟﾚｰﾄの溶接 — デッキプレートと鉄骨の溶接方法: ・図示 ・

8. 錆止め塗装

8.3 塗料の種別 — SRC造の鋼製スリーブ(鉄骨に溶接されたもの)の内面:
・図示 ・標準仕様書 表18.3.1【※A種 ・B種 ・C種】 ・

新庁舎整備事業 倉庫Ⅱ建設工事 実施図 ● 確申図
KT2−A005
名称 建築工事 特記仕様書2
縮尺 – 日付 2019.02 査図
一級建築士事務所第12399号(有)香山壽夫建築研究所 東京都文京区本郷2-12-10UT本郷3F 一級建築士第65408号 佐伯和俊
構造:一級建築士事務所 東京都知事登録第56306号 株式会社 KAP 一級建築士第341678号(構造設計一級建築士第9490号) 萩生田秀之

章	項 目	特記事項
7章 鉄骨工事	8.3 塗料の種別	耐火被覆材の接着面: ・図示 ・標準仕様書 表18.3.1【・A種 ・B種 ・C種】・
		9. 耐火被覆
	9.2 耐火被覆の種類及び性能	耐火被覆材の種類及び性能: ※図示 ・
		10. 工事現場施工
	10.3 ｱﾝｶｰﾎﾞﾙﾄ等の設置	構造用アンカーボルトの適用: ・適用する ・適用しない
		建方用アンカーボルトの適用: ・適用する ・適用しない
		構造用アンカーボルトの形状及び寸法: ・図示 ・
		構造用アンカーフレームの形状及び寸法: ・図示 ・
		アンカーボルトの保持及び埋込み工法の種別: ・A種 ・B種 ・C種
		柱底均しモルタルの厚さ: ・図示 ・
		柱底均しモルタルの工法の種別: ※A種 ・B種
		11. 軽量形鋼構造
	11.2 施 工	ボルトの接合方法: ・図示 ・
		12. 溶融亜鉛めっき工法
	12.4 溶融亜鉛めっき高力ﾎﾞﾙﾄ接合	摩擦面の処理: ・ﾌﾞﾗｽﾄ処理 ・りん酸塩処理等
		りん酸塩処理等の場合の摩擦面のすべり耐力等の確認方法: ・図示 ・
8章 コンクリートブロック・ALCパネル・押出成形セメント板工事		2. 補強コンクリートブロック造
	2.2 材 料	ブロックの種類 : ※空洞ﾌﾞﾛｯｸ16 ・空洞ﾌﾞﾛｯｸ16-W
	2.4 ｺﾝｸﾘｰﾄの調合	設計基準強度(Fc): ※21N/mm2 ・18N/mm2 ・
	2.5 鉄筋の加工、組立	各部の配筋 : ・図示 ・
		3. コンクリートブロック帳壁及び塀
	3.2 材 料	ブロックの種類 : ※標準仕様書表8.3.1による ・図示
		・化粧ﾌﾞﾛｯｸ;t=
	3.3 鉄筋の加工、組立	各部の配筋 : ・図示 ・
		4. ALCパネル
	4.2 材 料	種 類 / 単位荷重(N/m2) / 厚さ(mm) / 長さ(mm)
		・屋根用 / ・ 980 ・ / ・100 ・ / ・図示 ・
		・床 用 / ・2350 ・3530 / ・100 ・150 / ・図示 ・
		・外壁用 / ・1180 ・1960 / ・100 ・ / ・図示 ・
		・間仕切用(ロ) / / ・100 ・ / ・図示 ・
		・間仕切用(ハ) / / ・100 ・ / ・図示 ・
		・ / / /
		/ / /
	4.3 外壁ﾊﾟﾈﾙ工法	取付け工法種別: ・A種 ・B種
		パネル幅の最小限度: ※300mm ・400mm
		伸縮調整目地巾: ・図示 ・10mm ・15mm ・20mm
		耐火目地材 : ・有 ・無 ・
	4.4 間仕切ﾊﾟﾈﾙ工法	取付け工法種別: ・C種 ・D種 ・E種
		5. 押出成形セメント板(ECP)
	5.2 材 料	使用箇所: ・外壁用
		表面形状: ・ﾌﾗｯﾄﾊﾟﾈﾙ ・ﾃﾞｻﾞｲﾝﾊﾟﾈﾙ ・ﾀｲﾙﾍﾞｰｽﾊﾟﾈﾙ
		厚み寸法: ・50mm ・60mm ・
		使用箇所: ・間仕切壁用
		表面形状: ・ﾌﾗｯﾄﾊﾟﾈﾙ ・ﾃﾞｻﾞｲﾝﾊﾟﾈﾙ ・ﾀｲﾙﾍﾞｰｽﾊﾟﾈﾙ
		厚み寸法: ・50mm ・60mm ・
	5.3 外壁ﾊﾟﾈﾙ工法	取付け工法種別: ・A種 ・B種
		パネル相互間目地幅: ・15mm(短辺)8mm(長辺)以上 ・
		耐火構造以外の目地及び隙間の処理: ※製造ﾒｰｶｰ仕様による ・
	5.4 間仕切ﾊﾟﾈﾙ工法	取付け工法種別: ・B種 ・C種
	5.5 溝掘り及び開口部の処置	パネルの開口部の限度: ・製造ﾒｰｶｰ基準による ・短辺: mmx長辺: mm以下
		パネルの欠込みの限度: ・製造ﾒｰｶｰ基準による ・短辺: mmx長辺: mm以下

章	項 目	特記事項
9章 防水工事	1.* 防水工事の保証書の提出、保証年限	・保証書(請負人、材料製造所、防水施工者の連帯保証)は各2通提出すること。
		・防水施工者は、防水材料製造所指定の施工者とし、監督員の承諾を受ける。
		保証書提出工事 / 保証箇所 / 保証年限
		・ｱｽﾌｧﾙﾄ防水 / / ※10年 ・ 年
		/ / ※10年 ・ 年
		/ / ※10年 ・ 年
		/ / ※10年 ・ 年
		/ / ※10年 ・ 年
		・改質ｱｽﾌｧﾙﾄｼｰﾄ防水 / / ※10年 ・ 年
		/ / ※10年 ・ 年
		・合成高分子ﾙｰﾌｨﾝｸﾞ防水 / / ※10年 ・ 年
		/ / ※10年 ・ 年
		・塗膜防水 / / ※10年 ・ 年
		/ / ※10年 ・ 年
		水張り試験: ・行う ・行わない
		試験箇所: ・3階屋上部分、階段室2(R階部分)
		試験方法: ※ドレイン廻りをルーフィング類やウエス類で仮の蓋をし、防水層の立上がり端部を越えないように水を張り、24時間以上そのままにしておいた後、周辺や階下への漏れの有無を確認する。
	2.2 材 料	2. アスファルト防水
		改質アスファルトルーフィングの種類及び厚さ:
		※標準仕様書表9.2.3～9.2.8による ・図示 ・
		部分粘着層付改質アスファルトルーフィングの種類及び厚さ:
		※標準仕様書表9.2.5～9.2.8による ・図示 ・
		◎屋根保護防水断熱工法の断熱材
		材質: ※標準仕様書9.2.2(h) ・
		厚さ: ・35mm ・25mm ・図示
		◎屋根露出防水断熱工法の断熱材
		材質: ※標準仕様書9.2.2(i) ・
		厚さ: ・50mm ・35mm ・図示
		◎絶縁用シート
		材質(保護防水工法) : ※ﾎﾟﾘｴﾁﾚﾝﾌｨﾙﾑ;t=0.15mm以上
		・
		?
		・
		防水層立上り部の保護の種類:
		・乾式保護 ・湿式保護【・図示 ※普通れんが(JIS R1250) ・ﾒﾀﾙﾗｽ ・ 】
	2.3 防水層の種類、種別及び工程	種 類 / 種 別 / 施工箇所
		・保護防水密着 / ・A-1 ・A-2 ・A-3 /
		/ ・AI-1 ・AI-2 ・AI-3 /
		・保護防水絶縁 / ・B-1 ・B-2 ・B-3 /
		/ ・BI-1 ・BI-2 ・BI-3 /
		・露出防水絶縁 / ・D-1 ・D-2 ・D-3 ・D-4 ・DI-1 ・DI-2 / 階段室・2／R階
		・屋内防水密着 / ・E-1 ・E-2 /
		/ /
		立上がり部の保護コンクリートの適用: ・適用する ・適用しない
		工法: ・
		◎脱気装置
		種 類 : ※製造ﾒｰｶｰ指定 ・
		設置数量: ※製造ﾒｰｶｰ指定 ・
		屋内防水部分の保護層: ・設ける ・設けない
	2.4 施 工	◎防水層下地
		下地モルタル塗り: ・適用する ・適用しない
		適用箇所:
		ルーフドレン廻りの断熱材の張仕舞い位置: ・製造ﾒｰｶｰ推奨による ・図示

章	項 目	特記事項
9章 防水工事	2.4 施 工	立上りコンクリートの仕上の種別: ・A種 ・B種 ・C種 ・
		防水立上がり端部押さえ金物: ・使用する ・使用しない
	2.5 保護層等の施工	立上がり部の保護: ・ｺﾝｸﾘｰﾄ押え ・れんが押え ・ﾓﾙﾀﾙ押え
		・乾式保護材 ・ｱﾙﾐ水切り金物押え
		伸縮調整目地 : ・図示 ・
		屋上排水溝 : ・適用 ・適用しない
		3. 改質アスファルトシート防水
	3.2 材 料	改質アスファルトルーフィングの種類及び厚さ:
		※標準仕様書表9.3.1～9.3.3による ・図示 ・
		部分粘着層付改質アスファルトルーフィングの種類及び厚さ:
		◎屋根露出防水絶縁断熱工法の断熱材
		材質: ※標準仕様書9.3.2(c)(2) ・
		厚さ: ・50mm ・35mm ・図示
		※標準仕様書表9.3.1～9.3.3による ・図示 ・
	2.3 防水層の種類、種別及び工程	種 類 / 種 別 / 施工箇所
		・露出防水密着 / ・AS-T1 ・AS-T2 ・AS-J1 /
		・露出防水絶縁 / ・AS-T3 ・AS-T4 ・AS-J2 /
		/ ・ASI-T1 ・ASI-J1 /
		仕上塗装の種類: ・製造ﾒｰｶｰ標準仕様による ・遮熱塗料 ・
		仕上塗装の使用量: ・
		4. 合成高分子ルーフィングシート防水
	4.2 材 料	種類: ・加流ｺﾞﾑ系 ・塩化ﾋﾞﾆﾙ樹脂系 ・熱可塑性ｴﾗｽﾄﾏｰ系
		◎固定金具
		材質: ※防錆処理鋼板 ※ｽﾃﾝﾚｽ鋼板 ※樹脂被覆鋼板
		厚さ: ・0.4mm以上 ・0.8mm以上 ・
		◎断熱工法の断熱材
		材質: ※標準仕様書9.4.2(3) ・
		厚さ: ・50mm ・35mm ・図示
		絶縁シートの種類及び厚さ: ※標準仕様書表9.4.1及び9.4.2による ・図示 ・
	4.3 防水層の種類、種別及び工程	種 別 / シートの厚さ(mm) / 施工箇所
		・S-F1 ・S-F2 / ※1.2 ※2.0 ・ /
		・S-M1 ・S-M1 ・S-M3 / ※1.5 ※1.2 ・ /
		・SI-F1 ・SI-F2 / ※1.2 ※2.0 ・ /
		・SI-M1 / ※1.5 ・ /
		・SI-M2 / ※1.5(立上り共) ・ /
		・S-C1 / ※1.0 ・ /
		仕上塗装の種類: ・製造ﾒｰｶｰ標準仕様による ・遮熱塗料 ・
		仕上塗装の使用量: ・
		S-C1工法のモルタル塗り厚: ・20mm ・
	4.4 施 工	◎屋内保護密着工法(S-C1)
		PC板、ALC板下地の場合の目地処理: ・絶縁ﾃｰﾌﾟ(W=50mm)張り ・
		PC板、ALC板下地の場合の入隅の増張り: ・増張り用ｼｰﾄ(W=200mm)張り
		床塗り工法: ※標準仕様書15.2.5(b)(2,3)による ・
		タイル張り下地モルタル塗りの厚さ: ※標準仕様書15.2.5(c)(1)による ・
		保護ｺﾝｸﾘｰﾄの厚さ: ・
		立上り部の保護ﾓﾙﾀﾙの厚さ: ・
		5. 塗膜防水
	5.3 防水層の種類、種別及び工程	種 類 / 種 別 / 施工箇所
		・ｳﾚﾀﾝｺﾞﾑ系 / ・X-1 ・X-2 /
		・ｺﾞﾑｱｽﾌｧﾙﾄ系 / ・Y-1 ・Y-2 /
		・ｱｸﾘﾙｺﾞﾑ系 / /
		/ /
		/ /
		仕上塗装の種類: ・製造ﾒｰｶｰ標準仕様による ・遮熱塗料 ・
		仕上塗装の使用量: ・

新庁舎整備事業 倉庫Ⅱ建設工事

実施図 ● 検申図

KT2-A006

名称 建築工事 特記仕様書3

縮尺 – 日付 2019.02

一級建築士事務所第12399号(有)香山壽夫建築研究所 東京都文京区本郷2-12-10UT本郷3F 一級建築士第65408号 佐伯和俊
構造:一級建築士事務所 東京都知事登録第56306号 株式会社 KAP 一級建築士第341678号(構造設計一級建築士第9490号) 萩生田秀之

章	項 目	特記事項
9章 防水工事	5.3 防水層の種類、種別及び工程	◎脱気装置 種 類 ： ※製造メーカー指定 ・ 設置数量： ※製造メーカー指定 ・ 保護層： ・設置する ・設置しない
		6. ケイ酸質系塗布防水
	6.1 適用範囲	
	6.2 材 料	
	6.4 施 工	下地処理： ・
		7. シーリング
	(7.*) 保証年限	シーリング保証書：(・)提出する ・提出しない (・)保証書（請負人、材料製造所、シーリング施工者連帯保証）は各2通提出すること。
	(7.2) 材 料	ノンブリードタイプシーリング材の適用： ※使用する ・使用しない 施工箇所： ・ﾎﾟﾘｳﾚﾀﾝ系ｼｰﾘﾝｸﾞで仕上げありの部位 ・
	(7.5) ｼｰﾘﾝｸﾞ材の試験	(※)簡易接着性試験 ・引張接着性試験
10章 石工事	1.3 施工一般	1. 一般事項 ※湿式工法の場合、気温2℃以下になるおそれのある場合は施工してはならない 石材の割付け： ※標準仕様書による ・ 粗面仕上げの見え隠れ部分の仕上げ： ・ひき肌 ・水磨き ・本磨き ・
	1.5 清 掃	ワックス材の使用： ・使用する ・使用しない
		2. 材 料
	2.1 石 材	◎天然石 石材の品質（床用石材）： ・1等品 ※2等品 ・ 石材の品質（壁及びその他の石材）： ※1等品 ・2等品 ・ 石材の種類、表面仕上げ等： ・図示 ・ 石材の形状、寸法等 ： ・図示 ※標準仕様書による ・ ◎テラゾ 種石の種類 ： ※大理石の類 ・花崗岩の類 ・ 種石の大きさ： ※1.5mm～12mm ・12mm以下 ・6mm以下 ・ 形状、寸法 ： ※図示 ・ 仕上面の区分： ・本磨き ・水磨き ・粗磨き ・
	2.2 取付け金物	外壁湿式工法、内壁空積工法用金物： ※標準仕様書による ・ ◎特殊部位用金物 引き金物、受け金物等： ※標準仕様書による ・ ファスナー ： ※標準仕様書による ・ 吊り金物 ： ※標準仕様書による ・ 化粧吊り金物： ※標準仕様書による ・ アンカー金物： ※標準仕様書による ・ その他金物 ： ※標準仕様書による ・
	2.3 その他材料	取付用モルタル： ※標準仕様書による ・ 目地用モルタル： ※標準仕様書による ・ 石裏面処理材： ※標準仕様書による ・ 裏打ち処理材： ※標準仕様書による ・

施工箇所	種 別	施工箇所
・背面水圧側	・C-UI ・C-UP	・図示 ・地下外壁 ・地下床 ・ﾋﾟｯﾄ
・水圧側	・C-UI ・C-UP	・図示 ・地下外壁 ・水槽 ・ﾋﾟｯﾄ

施工箇所	シーリング材の種類	目地寸法(mm)	保証年限
(・)打継目地、誘発目地	標準仕様書9.6.2による		メーカー標準仕様による
(・)ｶﾞﾗｽ止め付け	標準仕様書9.6.2による		メーカー標準仕様による
(・)ｻｯｼ廻り			メーカー標準仕様による
(・)外壁貫通部			メーカー標準仕様による

章	項 目	特記事項
		ドレンパイプ： ・SUS304ﾊﾟｲﾌﾟ ・硬質塩ﾋﾞﾊﾟｲﾌﾟ ・ 金物固定充填材： ※標準仕様書による ・
		3. 外壁湿式工法
	3.2 材 料	石材の厚さ ： ・図示 ※25mm以上 ・13mm ・ 石裏面処理： ・行う ・行わない 裏打ち処理： ・行う ・行わない
	3.3 施 工	下地ごしらえ： ※標準仕様書による ・ 目地幅： ・図示 ※6mm以上 ・ 伸縮目地位置： ・図示 ※標準仕様書による ・ 伸縮目地寸法： ・図示 ※標準仕様書による ・15mm ・20mm ・
		4. 内壁空積工法
	4.2 材 料	石材の厚さ ： ・図示 ※20mm以上 ・13mm ・ 裏打ち処理： ・行う ・行わない
	4.3 施 工	下地ごしらえ： ※あと施ｴｱﾝｶｰ・横筋流し工法 ・あと施ｴｱﾝｶｰ工法 ・
	4.3 施 工	目地幅： ・図示 ※6mm以上 ・ 伸縮目地位置： ・図示 ※標準仕様書による ・ 伸縮目地寸法： ・図示 ※標準仕様書による ・15mm ・20mm ・
		5. 乾式工法
	5.2 材 料	石材の厚さ ： ・図示 ※25mm以上 ・13mm ・ ダボアナの位置： ※標準仕様書による ・ 石裏面処理： ・行う ・行わない 裏打ち処理： ・行う ・行わない
	5.3 施 工	外壁に採用する場合の工法： ・ 目地幅： ・図示 ※8mm以上 ・
		6. 床及び階段の石張り
	6.2 床の石張り	石材の厚さ ： ・図示 ※25mm以上 ・13mm ・ 石裏面処理： ・行う ・行わない 目地幅： ・図示 ※標準仕様書による ・ねむり目地～3mm
	6.3 階段の石張り	石材の厚さ ： ・図示 ※25mm以上 ・13mm ・ 石裏面処理： ・行う ・行わない
		7. 特殊部位の石張り
	7.1 適用範囲	取付け工法： ・図示 ・外壁湿式工法 ・内壁空積工法 ・乾式工法 ・
	7.2 アーチ、上裏等の石張り	石材の厚さ ： ・図示 ・25mm ・ 石裏面処理： ・行う ・行わない 裏打ち処理： ・行う ・行わない 目地幅： ・図示 ※6mm以上 ・ 伸縮目地の位置： ・図示 ※標準仕様書による ・
	7.3 笠木、甲板等の石張り	石材の厚さ ： ・図示 ・25mm ・ 石裏面処理： ・行う ・行わない 乾式工法取付け代： ・図示 ※標準仕様書による ・ 石裏面の補強用モルタル： ・適用する ・適用しない
	7.4 隔て板	石材の厚さ ： ・図示 ※40mm ・
11章 タイル工事		2. セメントモルタルによる陶磁器質タイル張り
	2.2 材 料	タイルの種類等： ・図示 ・下表による ・

施工箇所	形式・形状寸法 (mm)	用途による区分	耐凍害性 有	耐凍害性 無	色 標準	色 特注	釉薬 施釉	釉薬 無釉	備 考
			・	・	・	・	・	・	
			・	・	・	・	・	・	
			・	・	・	・	・	・	
			・	・	・	・	・	・	

章	項 目	特記事項
11章 タイル工事	2.2 材 料	◎タイルの役物 使用箇所： ・出隅 ・入隅 ・幅木 ・まぐさ ・窓台 製造方法： ・接着成型品 ・一体成型品 タイルの見本焼き： ・行う ・行わない タイルの試験張り： ・行う ・行わない
	2.7 施 工	◎壁タイル張り 内装タイルの工法： ・改良積上げ張り ・ 外装タイルの工法： ・密着張り ・改良積上張り ・改良圧着張り 内装以外のユニットタイルの工法： ・ﾏｽｸ張り ・ﾓｻﾞｲｸﾀｲﾙ張り
		3. 接着剤による陶磁器質タイル張り
	3.2 材 料	タイルの種類等： ・図示 ・下表による ・

施工箇所	形式・形状寸法 (mm)	用途による区分	耐凍害性 有	耐凍害性 無	色 標準	色 特注	釉薬 施釉	釉薬 無釉	備 考
			・	・	・	・	・	・	
			・	・	・	・	・	・	
			・	・	・	・	・	・	

章	項 目	特記事項
		◎タイルの役物 使用箇所： ・出隅 ・入隅 ・幅木 ・まぐさ ・窓台 製造方法： ・接着成型品 ・一体成型品 タイルの見本焼き： ・行う ・行わない タイルの試験張り： ・行う ・行わない
	3.7 施 工	モルタル塗りコンクリート素地面： ・素肌 ・MCR工法 ・目荒し工法（高圧水洗） ◎壁タイル張り 内装タイルの工法： ・内装ﾀｲﾙ接着剤張り ・ 外装タイルの工法： ・外装ﾀｲﾙ接着剤張り ・ 内装以外のユニットタイルの工法： ・外装ﾀｲﾙ接着剤張り ・
		4. 陶磁器質タイル型枠先付け
	4.2 材 料	タイルの種類等： ・図示 ・下表による ・

施工箇所	形式・形状寸法 (mm)	用途による区分	耐凍害性 有	耐凍害性 無	色 標準	色 特注	釉薬 施釉	釉薬 無釉	備 考
			・	・	・	・	・	・	
			・	・	・	・	・	・	
			・	・	・	・	・	・	

章	項 目	特記事項
		◎タイルの役物 使用箇所： ・出隅 ・入隅 ・幅木 ・まぐさ ・窓台 製造方法： ・接着成型品 ・一体成型品 タイルの見本焼き： ・行う ・行わない タイルの試験張り： ・行う ・行わない タイル型枠のせき板材料： ※標準仕様書による ・
	4.3 タイル型枠先付の種類	小口タイル： ・ﾀｲﾙｼｰﾄ法 ・目地桝法 ・ 二丁掛タイル： ・ﾀｲﾙｼｰﾄ法 ・目地桝法 ・ 大形タイル： ・桟木法 ・
12章 木工事		1. 一般事項 (・)本章の事項において○印の無い項目および構造材に関する内容は構造特記仕様書による (・)木材に関する取扱いは、本設計図書に添付する「施工者向け指示書・支給木材特記事項」に記載する内容を十分に理解したうえで工事の受注および施工を行うこと。
	(1.4) 表面仕上げ	見え掛り面の表面仕上げの適用箇所、種類： ・図示 ・下表による

適用箇所	種 類
(・)開口部額縁 ・(建)具枠 ・笠木	・A種 (・)B種 ・C種
・ﾌﾟﾗｲﾝﾄﾞﾎﾞｯｸｽ ・ｶｰﾃﾝﾎﾞｯｸｽ	・A種 ・B種 ・C種
・飾り柱 ・格子 ・ｶｳﾝﾀｰ天板 ・衝立	・A種 ・B種 ・C種
・棚板 ・	・A種 ・B種 ・C種
・梯子 ・	・A種 ・B種 ・C種

新庁舎整備事業 倉庫Ⅱ建設工事

実施図 ● 確申図

KT2-A007

名称 建築工事 特記仕様書4

縮尺 – 日付 2019.02

一級建築士事務所第12399号（有）香山壽夫建築研究所 東京都文京区本郷2-12-10UT本郷3F 一級建築士第65408号 佐伯和俊
構造：一級建築士事務所 東京都知事登録 第56306号 株式会社 KAP 一級建築士第341678号（構造設計一級建築士第9490号） 萩生田秀之

章	項 目	特記事項
12章 木工事	2.1 木 材	2. 材 料 木材(下地材)の含水率: ※A種 ・B種 木材(造作材)の含水率: ※A種 ・B種 代用樹種を適用しない箇所: ・ ◎製材

◇JASによる下地用針葉樹製材: ・下表による(寸法は図示) ・図示 ・

使用部位	樹種	区分等級	含水率	仕上げ	防腐防蟻処理	備 考
全般	桧	・1級	SD15	ｻﾝﾀﾞｰ	なし	
	杉	※2級	SD20	ｻﾝﾀﾞｰ	なし	
			D15	ﾌﾟﾚｰﾅｰ	なし	
			D20	ﾌﾟﾚｰﾅｰ	なし	

◇JASによる造作用針葉樹製材: ・下表による(寸法は図示) ・図示 ・

使用部位	樹種	化粧等級	含水率	仕上げ	防腐防蟻処理	備 考
窓枠	ﾅﾗ	無節	SD15	ｻﾝﾀﾞｰ	なし	
床仕上げ板	杉	※上小節	SD18	ｻﾝﾀﾞｰ	なし	
ｶｰﾃﾝﾎﾞｯｸｽ	桧	※小節	D15	ﾌﾟﾚｰﾅｰ	なし	
段板		並	D18	ﾌﾟﾚｰﾅｰ	なし	
巾木						

◇JASによる広葉樹製材: ・下表による(寸法は図示) ・図示 ・

使用部位	樹種	区分等級	含水率	仕上げ	防腐防蟻処理	備 考
全般	ｹﾔｷ	特等	D10	ｻﾝﾀﾞｰ	なし	
	ﾅﾗ	※1等	D13	ﾌﾟﾚｰﾅｰ	なし	
		2等			なし	

◇JAS以外の製材: ・下表による(寸法は図示) ・図示 ・

使用部位	樹種	材面の品質	含水率	寸法	防腐防蟻処理	備 考
	桧	※A種	15%	図示		
	杉	B種	18%	図示		
	松		20%			

◎造作用集成材

◇JASによる造作用集成材: ・下表による(寸法は図示) ・図示 ・

使用部位	仕上げ	樹種	見付材		区分	備 考
			面	品質	等級	
	仕上有		1面	※1等	1等	
	未仕上			2等	2等	
	塗装		4面			

◇JASによる化粧ばり造作用集成材: ・下表による(寸法は図示) ・図示 ・

使用部位	仕上げ	樹種		見付材		区分	備 考
		心材	化粧材/厚さ	面	品質	等級	
	仕上有			1面	※1等	1等	
	未仕上				2等	2等	
	塗装			4面			

◇JASによる化粧ばり構造用集成柱: ・下表による(寸法は図示) ・図示 ・

使用部位	強度等級	樹種		見付材		区分	備 考
		心材	化粧材/厚さ	面	品質	等級	
	E190-F615			1面	1等	1等	
	E105-F345				2等	2等	
	E65-F255			4面			

◇JAS以外の造作用集成材: ・下表による(寸法は図示) ・図示 ・

使用部位	仕上げ	樹種	見付材		区分	含水率
			面	品質	等級	
	仕上有		1面	1等	1等	※15%
	未仕上			2等	2等	
	塗装		4面			

◇JAS以外の化粧ばり造作用集成材: ・下表による(寸法は図示) ・図示 ・

使用部位	仕上げ	樹種		見付材		区分	含水率
		心材	化粧材/厚さ	面	品質	等級	
	仕上有			1面	1等	1等	※15%
	未仕上				2等	2等	
	塗装			4面			

◇JAS以外の化粧ばり構造用集成柱: ・下表による(寸法は図示) ・図示 ・

使用部位	強度等級	樹種		見付材		区分	含水率
		心材	化粧材/厚さ	面	品質	等級	
	E190-F615			1面	1等	1等	※15%
	E105-F345				2等	2等	
	E65-F255			4面			

◎造作用単板積層材

◇JASによる造作用単板積層材: ・下表による(寸法は図示) ・図示 ・

使用部位	仕上げ	表面の品質	防腐防蟻処理	備 考
	仕上有	1等	なし	天然木化粧加工
	仕上有	2等		塗装加工
	未仕上	3等		

◇JAS以外の造作用単板積層材: ・下表による(寸法は図示) ・図示 ・

使用部位	含水率	仕上げ	表面の品質	防腐防蟻処理	備 考
	※14%	仕上有	1等	なし	天然木化粧加工
		仕上有	2等		塗装加工
		未仕上	3等		

◎床張り用合板等

◇JASによる普通合板

使用部位	表板樹種名	厚さ(mm)	接着の程度	板面の品質	等級・処理・寸法等
	ﾗﾜﾝ	※5.5	※1類	※2等	・図示
	ｼﾅ	9	2類	1等	
		12		※C-D	

◇JASによる構造用合板

使用部位	表板樹種名	等級	接着の程度	板面の品質	処理・寸法等
外壁・内壁耐力壁	針葉樹	1級	特類	A-B	F☆☆☆☆/防虫処理材
各室床下地捨て張り	ｼﾅ	2級	1類	B-C	
	ﾅﾗ			D-D	

◇パーティクルボード

使用部位	厚さ(mm)	曲げの区分	接着の区分	難燃性区分	等級・処理・寸法等
	※15			※13P/M	・図示
	18				

◇構造用パネル

曲げ等級: ・1級 ・2級 ・3級 ・4級

厚み: ・図示 ・25mm ・

2.1 木ﾚﾝｶﾞ　接着剤のﾎﾙﾑｱﾙﾃﾞﾋﾄﾞ放散量: ※F☆☆☆☆ ・F☆☆☆ ・

2.* 堅 木　樹種: ・ﾅﾗ ・ｹﾔｷ ・ｻｸﾗ ・ｸﾘ ・ｼｵｼﾞ ・

使用箇所: ・

2.* 銘 木　種別: ・真物 ・貼物

樹種: ・

使用箇所: ・

3. 防腐・防蟻・防虫処理

3.1 防腐・防蟻処理　◎薬剤の加圧注入による処理

施工箇所	性能区分	備 考
	・K2 ・K3 ・K4	
	・K2 ・K3 ・K4	

章	項 目	特記事項
12章 木工事	3.1 防腐・防蟻処理	薬剤の塗布による防腐・防蟻処理の方法: ※標準仕様書による ・ 原料接着剤への薬剤混入による防腐・防蟻処理の方法: ・図示 ・
		4. 鉄筋コンクリート造等の内部間仕切軸組及び床組
	4.1 木 材	間仕切軸組の木材の樹種: ※杉 ※松 ・ 土間スラブ以外の床組木材の樹種: ※杉 ※松 ・ 土間スラブ上の床組木材の樹種: ※桧 ※保存処理木材 ・
		5. 窓、出入口その他
	(5.1) 木 材	吊元枠、水掛りの下枠、敷居の木材の樹種: (※)桧 (・)杉 上記以外の木材の樹種: ※杉 ※松 ・
		6. 床板張り
	6.1 木 材	縁甲板、上がり框の木材の樹種: ※桧 ・
		7. 壁及び天井下地
	(7.1) 木 材	木材の樹種: (※)杉 ※松 ・
13章 屋根及びとい工事		2. 長尺金属板葺
	(2.2) 材 料	材種: (※)塗装溶融55%ｱﾙﾐﾆｳﾑ一亜鉛合金めっき鋼板材種 ・塗装ｽﾃﾝﾚｽ鋼板 ・塗装溶融亜鉛めっき鋼板 ・
		板厚: (・)0.4mm ・0.6mm ・0.8mm ・
		下葺材料: (・)ｱｽﾌｧﾙﾄﾙｰﾌｨﾝｸﾞ940 ・ ・改質ｱｽﾌｧﾙﾄﾙｰﾌｨﾝｸﾞ【・一般ﾀｲﾌﾟ ・複層基材ﾀｲﾌﾟ ・粘着層付ﾀｲﾌﾟ】
	2.3 工 法	屋根葺形式: ・心木なし瓦棒葺 ・立はぜ葺 ・平葺 (・)瓦棒葺
		雪止め: ・設置する (・)設置しない
		3. 折板葺
	3.2 材 料	材種: ※塗装溶融55%ｱﾙﾐﾆｳﾑ一亜鉛合金めっき鋼板材種 ・塗装ｽﾃﾝﾚｽ鋼板 ・塗装溶融亜鉛めっき鋼板 ・
		板厚(mm): ・1.0 ・0.8 ・0.6 ・
		山高(mm): ・ 90 ・150 ・180 ・
		軒先面戸板: ・有 ・無
		断熱材張り: ・無 ・有(材種等;
	3.3 工 法	形式による区分: ・重ね形又ははぜ締め形 ・
		4. 粘土瓦葺
	4.2 材 料	種類 : ・和瓦 ・洋瓦 ・
		区分 : ・釉薬瓦 ・塩焼瓦
		大きさ: ・53形 ・64形 ・
		産地 : ・石州 ・淡路 ・三州 ・
		役物瓦: ・図示 ・
		・軒先瓦(・棟瓦(
		・鬼瓦(・隅鬼瓦(
		雪止瓦: ・使用する ・使用しない
		瓦桟の材質: ※杉又は桧 ・杉 ・桧 ・
		瓦桟の寸法: ※21mm(W)x15mm(H) ・30mm(W)x18mm(H) ・
	4.3 工 法	瓦桟木の留付け工法: ※標準仕様書による ・
		棟の工法: ・
		5. と い
	5.2 材 料	軒どいの材種: ・ｱｽﾌｧﾙﾄ被覆鋼板 ・耐候性被覆鋼板 (・)塗装溶融55%ｱﾙﾐﾆｳﾑ
		縦どいの材種: ・配管用鋼管 ・硬質塩化ﾋﾞﾆﾙ管【・ｶﾗｰ ・ 】 (・)塗装溶融55%ｱﾙﾐﾆｳﾑ
		掃除口: ・有 (無)

新庁舎整備事業 倉庫Ⅱ建設工事

実施図 ● 申請図

KT2-A008

名称 建築工事 特記仕様書5

縮尺 – 日付 2019.02

一級建築士事務所第12399号(有)香山壽夫建築研究所 東京都文京区本郷2-12-10UT本郷3F 一級建築士第65408号 佐伯和俊
構造:一級建築士事務所 東京都知事登録第56306号 株式会社 KAP 一級建築士第341678号(構造設計一級建築士第9490号) 萩生田秀之

章	項 目	特記事項
13章 屋根及びとい工事	5.2 材 料	飾り桝: ・塩ビ製 ・鋼板製 ・
		とい受け金物: (・)ｽﾃﾝﾚｽ製 (・)亜鉛めっき鋼板製 ・
		ルーフドレイン: ・ｽﾃﾝﾚｽ製 ・鋳鉄製 ・ｱﾙﾐﾆｳﾑ製
	5.3 工 法	鋼管製といの防露: ・行う ・行わない
		施工箇所: ※標準仕様書表13.5.4による ・

章	項 目	特記事項
14章 金属工事	1.3 工 法	1. 一般事項
		あと施工アンカーの引抜き試験: ・行う ・行わない
		2. 表面処理
	2.1 ｽﾃﾝﾚｽの表面仕上	材質: ・図示 ・SUS304 ・SUS430 ・

種 別	施工箇所
※HL仕上げ	
?	
・ﾊﾞﾌ(#400)	
・ｻﾃﾝ仕上げ	
・鏡面仕上げ	

2.2 ｱﾙﾐﾆｳﾑ及びｱﾙﾐﾆｳﾑ合金の表面処理	表面処理: ・下表による ※標準仕様書による

種 別	表面処理	施工箇所
・B-1種	標準仕様書による	
・B-2種	標準仕様書による	
・A-1種	標準仕様書による	
・D種	・ｱｸﾘﾙ樹脂焼付塗装	
	・ﾌｯ素樹脂焼付塗装	

陽極酸化皮膜の着色方法: ※二次電解着色 ・ｱﾙｶﾘ樹脂焼付塗装
・静電塗装 ・ふっ素樹脂焼付塗装
・

2.3 鉄鋼の亜鉛ﾒｯｷ	表面処理方法	種 別	施工箇所
	・溶融亜鉛ﾒｯｷ	・A種 ・B種 ・C種	
	・電気亜鉛ﾒｯｷ	・D種 ・E種 ・F種	

4. 軽量鉄骨天井下地

4.2 材 料	種類: ※標準仕様書表14.4.1による ・
4.3 形状及び寸法	屋外の野縁受け、吊りボルト、インサートの間隔: ・≒@900mm ・
	屋外の野縁の間隔: ※標準仕様書表14.4.2による ・
4.4 工 法	吊ボルト間隔が900mmを超える場合の補強方法: ・図示 ・
	天井ふところが1.5mを超える場合の補強方法: ※標準仕様書による ・図示 ・
	天井ふところが3mを超える場合の補強方法: ・図示 ・

5. 軽量鉄骨壁下地

5.3 形状及び寸法	種類: ・50形 ・65形 ・90形 ・100形 ・

6. 金属成形板張り

6.2 材 料	材 種	・ｱﾙﾐﾆｳﾑ	・ｶﾞﾙﾊﾞﾘｳﾑ鋼板
	製 法	・押出し ・ﾌﾟﾚｽ ・ﾛｰﾙ	・押出し ・ﾌﾟﾚｽ ・ﾛｰﾙ
	表面処理		・55%ｱﾙﾐ-亜鉛合金めっき処理
6.3 工 法		取付け用下地: ※標準仕様書による ・	

7. アルミニウム製笠木

7.2 材 料	種類: ・250形 ・300形 ・350形 ・図示
	表面処理: ・A-1種 ・A-2種 ・
7.3 工 法	耐風圧、耐積雪対応固定方法: ・製造ﾒｰｶｰ仕様による ・

章	項 目	特記事項
14章 金属工事	8.2 材 料	8. 手すり及びタラップ

種 類	材 種	表面処理の種別
・手すり	・ｱﾙﾐﾆｳﾑ	・A-1 ・A-2 ・
・ﾀﾗｯﾌﾟ	・鋼	亜鉛めっきの場合 ・14.2.2のC種
	・ｽﾃﾝﾚｽ鋼	・No.2B ・

章	項 目	特記事項
15章 左官工事	2.2 材 料	2. モルタル塗り
		既製目地: ・適用 ・不適用
		既製目地の形状寸法等: ・図示 ・
	2.5 工 法	床の目地: ・設ける ・設けない
		工法: ※押し目地 ・切り目地 ・
		外壁タイル下地モルタルの接着力試験: ・行う ・行わない
		3. 床コンクリート直均し仕上げ
	(3.1)適用範囲	施工箇所: (・)一般の床
		・防水の下地 ・
		4. セルフレベリング材塗り
	4.2 材 料	品質: ・ｾﾒﾝﾄ系 ・せっこう系 ・
		厚さ: ※10mm ・図示
		5. 仕上塗材仕上げ
	5.2 材 料	◎薄付仕上塗材の施工箇所: ・図示 ・
		材料の防火指定: ・無 ・有(

種類(呼び名)	仕上げの形状	工 法
・外装薄塗材Si	・砂壁状・ゆず肌状	吹付け
	・ゆず肌状・さざ波状	ﾛｰﾗｰ塗り
・可とう形外装薄塗材Si	・砂壁状・ゆず肌状	吹付け
	・ゆず肌状・さざ波状	ﾛｰﾗｰ塗り
・外装薄塗材E	・砂壁状・ゆず肌状・着色骨材砂壁状	吹付け
	・平たん状・凹凸状・着色骨材砂壁状	こて塗り
	・ゆず肌状・さざ波状	ﾛｰﾗｰ塗り
・可とう形外装薄塗材E	・砂壁状・ゆず肌状	吹付け
	・平たん状・凹凸状	こて塗り
	・ゆず肌状・さざ波状	ﾛｰﾗｰ塗り
・防水形外装薄塗材E	・ゆず肌状・さざ波状	ﾛｰﾗｰ塗り
	・凹凸状	吹付け
・外装薄塗材S	・砂壁状	吹付け
・内装薄塗材C	・凹凸状	吹付け
・内装薄塗材L	・平たん状・凹凸状	こて塗り
	・ゆず肌状・さざ波状	ﾛｰﾗｰ塗り
・内装薄塗材Si	・砂壁状じゅらく・ゆず肌状	吹付け
・内装薄塗材E	・平たん状・凹凸状	こて塗り
	・ゆず肌状・さざ波状	ﾛｰﾗｰ塗り
・内装薄塗材W	・京壁状じゅらく・ゆず肌状	吹付け
・内装薄塗材W(調湿形)	・平たん状・凹凸状	こて塗り

◎厚付仕上塗材の施工箇所: ・図示 ・
材料の防火指定: ・無 ・有(

種類(呼び名)	仕上げの形状	工 法
・外装厚塗材C	・吹放し・凸部処理	吹付け
	・平たん状・凹凸状・ひき起し・かき落し	こて塗り
・外装厚塗材Si	・吹放し・凸部処理	吹付け
・外装厚塗材E	・平たん状・凹凸状・ひき起し	こて塗り
	・平たん状・凹凸状・ひき起し	ﾛｰﾗｰ塗り
・内装厚塗材C	・吹放し・凸部処理	吹付け
	・平たん状・凹凸状・ひき起し・かき落し	こて塗り
・内装厚塗材L	・平たん状・凹凸状・ひき起し・かき落し	こて塗り

章	項 目	特記事項
15章 左官工事	5.2 材 料	

種類(呼び名)	仕上げの形状	工 法
・内装厚塗材G	・平たん状・凹凸状・ひき起し・かき落し	こて塗り
・内装厚塗材Si	・吹放し・凸部処理	吹付け
・内装厚塗材E	・平たん状・凹凸状・ひき起し	こて塗り
	・平たん状・凹凸状・ひき起し	ﾛｰﾗｰ塗り

◎複層仕上塗材の施工箇所: ・図示 ・
材料の防火指定: ・無 ・有(不燃認定品

種類(呼び名)	仕上げの形状	工 法
・複層塗材CE	・凸部処理・凹凸模様	吹付け
・複層塗材Si	・ゆず肌状	ﾛｰﾗｰ塗り
・複層塗材E		
・複層塗材RE		
・可とう形複層塗材CE	・凸部処理・凹凸模様	吹付け
	・ゆず肌状	ﾛｰﾗｰ塗り
・複層塗材RS	・凸部処理・凹凸模様	吹付け
	・ゆず肌状	ﾛｰﾗｰ塗り
・防水形複層塗材CE	・凸部処理・凹凸模様	吹付け
・防水形複層塗材E	・ゆず肌状	ﾛｰﾗｰ塗り
・防水形複層塗材RS		
・防水形複層塗材RE		

	耐候性: ※耐候形3種 ・
	上塗材溶媒: ※水系 ・
	上塗材樹脂: ※ｱｸﾘﾙ系 ・
	上塗材外観: ※つやあり ・つやなし ・ﾒﾀﾘｯｸ ・
	防水形の増塗材の適用: ・する ・しない
	6. マスチック塗材塗り
6.2 塗材塗り	種別: ・A種 ・B種
	8. ロックウール吹付け
8.2 材 料	ﾛｯｸｳｰﾙのﾎﾙﾑｱﾙﾃﾞﾋﾄﾞ放散量: ※F☆☆☆☆ ・F☆☆☆ ・
	接着剤のﾎﾙﾑｱﾙﾃﾞﾋﾄﾞ放散量: ※F☆☆☆☆ ・F☆☆☆ ・
8.3 配合及び密度等	吹付け厚さ: ・図示 ・30mm ・25mm ・20mm ・

章	項 目	特記事項
16章 建具工事	1.3 防火戸	1. 一般事項
		防火戸の指定: ・図示 ・
		・防火戸等の自動閉鎖装置は、日本建築センター評定品とする。
	(1.4)見本の制作等	建具見本の制作: ・必要 (・)不要
		仮組の実施 : ・行う (・)行わない
	(1.6)その他	防犯建物部品の適用: ・図示 ・適用 (・)適用しない
		2. アルミニウム製建具

種 別	耐風圧性	気密性	水密性	枠の見込み寸法(mm)
(・)A種	S-4	A-3	W-4	70
・B種	S-5			
・C種	S-6	A-4	W-5	100

(2.2)性能及び構造	防音ドアセット、サッシの適用: ・適用 (・)適用しない ・図示
	遮音性の等級: ・T-1 ・T-2 ・T-3 ・T-4
	断熱ドアセット、サッシの適用: (・)適用 ・適用しない ・図示
	断熱性の等級: ・H-1 ・H-2 (・)H-3 ・H-4 ・H-5
	耐震ドアセットの適用: ・適用 (・)適用しない ・図示
	面内変形追随性の等級: ・D-1 ・D-2 ・D-3
2.3 材 料	防虫網の適用: ・適用 (・)適用しない ・図示
	網の材種: ※合成樹脂製 ・ｽﾃﾝﾚｽ製 ・ｶﾞﾗｽ繊維入り合成樹脂製
	形式 : ・外面納まり可動式 ・外面納まり固定式

新庁舎整備事業 倉庫Ⅱ建設工事

実施図 ● 検申図

KT2-A009

名称 建築工事 特記仕様書6

書図

縮尺 – 日付 2019.02

一級建築士事務所第12399号(有)香山壽夫建築研究所 東京都文京区本郷2-12-10UT本郷3F 一級建築士第65408号 佐伯和俊
構造:一級建築士事務所 東京都知事登録第56306号 株式会社 KAP 一級建築士第341678号(構造設計一級建築士第9490号) 萩生田秀之

章	項 目	特記事項
16章 建具工事	(2.4)形状及び仕上げ	建具枠の見込: ・図示 (・)70 ・100 ・
		外部に面する建具の表面処理: (・)B-1種 ・ B-2種
		屋内の建具の表面処理 : ・C-1種 ・
		表面色: (・)標準色 ・特注色
		引違い建具落下防止機構: (・)採用する ・採用しない
		水切り板: (・)取付ける ・取付けない
		ぜん板 : (・)取付ける ・取付けない
		結露水の処理方法: ・図示 (・)メーカー標準仕様による
		3. 樹脂製建具
	3.2 性能及び構造	種 別 / 耐風圧性 / 気密性 / 水密性 / 枠の見込み寸法(mm) ・A種 / S-4 / A-4 / W-4 / 70 ・B種 / S-5 / W-5 ・C種 / S-6
		防音ドアセット、サッシの適用: ・適用 ・適用しない ・図示
		遮音性の種別: ・T-A ・T-B
		断熱ドアセット、サッシの適用: ・適用 ・適用しない ・図示
		断熱性の種別: ・H-A ・H-B ・H-C ・
	3.3 材 料	ガラスの形式: ・複層ｶﾞﾗｽ ・単層ｶﾞﾗｽ ・三重ｶﾞﾗｽ ・
	3.4 形状及び仕上げ	建具の表面色: ・標準色 ・特注色
	3.5 工 法	水切り板: ・取付ける ・取付けない
		ぜん板 : ・取付ける ・取付けない
		4. 鋼製建具
	(4.2)性能及び構造	性能及び構造: (※)JIS規格による ・
		外部に面する鋼製建具の耐風圧性能: ・S-4 (・)S-5 ・S-6 ・
	(4.3)材 料	鋼板の種類: ・JIS G 3302;溶融亜鉛めっき鋼板帯
		・JIS G 3317;溶融亜鉛−5%ｱﾙﾐﾆｳﾑ合金めっき鋼板帯
		JIS G 3302のめっきの最小付着量(両面): ・Z12又はF12(120 g/m2)以上 ・
		JIS G 3317のめっきの最小付着量(両面): ・Y08以上 ・
	(4.4)形状及び仕上げ	鋼板類の厚さ: (※)標準仕様書表16.4.2による ・
		防音ドアセット、サッシの適用: ・適用 ・適用しない (・)図示
		遮音性の等級: ・T-1 ・T-2 ・T-3 ・T-4
		5. 鋼製軽量建具
	5.2 性能及び構造	性能及び構造: ※JIS規格による ・
		簡易気密型ドアセットの適用: ・適用 ・適用しない ・図示
		気密性: ・A-1 ・
		水密性: ・W-1 ・
	5.3 材 料	鋼板の種別: ・ﾋﾞﾆﾙ被覆鋼板 ・ｶﾗｰ鋼板 ・ｽﾃﾝﾚｽ鋼板 ・図示
		召合わせ、縦小口包み板等の適用: ・適用 ・適用しない ・図示
		材質: ※鋼板 ・ｽﾃﾝﾚｽ鋼板 ・ｱﾙﾐﾆｳﾑ押出型材 ・
	5.4 形状及び仕上げ	鋼板類の厚さ: ・図示 ・0.6mm ・1.5mm(ｽﾃﾝﾚｽ鋼板) ・1.6mm ・2.3mm ・
		6. ステンレス製建具
	6.3 材 料	性能及び構造: ※JIS規格による ・
		ステンレス鋼鈑の材質: ※SUS304,430J1L,430 ・SUS304 ・SUS430 ・
		表面仕上げ: ※HL ・鏡面 ・ﾊﾌ( ) ・
	6.5 工 法	曲げ加工: ・普通曲げ ・角出し曲げ
		7. 木製建具
	7.2 材 料	建具材の加工、組立て時の含水率の種別: ・A種 ※B種 ・C種
		・フラッシュ戸の心材の中骨、上下桟及び中桟には空気穴を適正に設ける。
		合板類の適用: ・適用 ・適用しない ・図示
		種類: ・ﾗﾜﾝ合板 ・ｼﾅ合板 ・図示 ・
		かまち戸の樹種: ・桧 ・ﾅﾗ ・ﾗﾜﾝ
		鏡板の樹種: ・杉 ・桧 ・ｹﾔｷ ・ﾅﾗ ・ﾗﾜﾝ

章	項 目	特記事項
16章 建具工事	7.2 材 料	ふすまの上張りの種類: ・本鳥の子 ・新鳥の子 ・ビニル紙 ・
		代用樹種等を適用しない箇所: ・
	7.3 形状及び仕上げ	フラッシュ戸の表面板の厚さ: ・標準仕様書表16.7.5による ・
		かまち戸の見込寸法: ・図示 ※36mm ・
		ふすまの見込寸法 : ・図示 ※19.5mm ・
		戸ぶすまの見込寸法: ・図示 ※30mm ・
		紙貼障子の見込寸法: ・図示 ※30mm ・
	7.4 工 法	ふすまの工法: ・懸型 ・嵌型 ・
		ふすまの縁の仕上げ: ・図示 ・本漆塗り ・ｶｼｭｰ塗り ・ｳﾚﾀﾝ塗装 ・素木 ・
		8. 建具用金物
	8.1 適用範囲	適用範囲: ・建具製作所仕様以外の金物(
	(8.2)材質、形状、及び寸法	金物の種類、材質: ※標準仕様書表16.8.1による ・
		軸吊りヒンジ: ・自閉装置付き ・自閉装置なし
		ドアクローザのディレードアクション(遅延閉)機能の適用: (・)適用 ・適用しない
		戸当り: (・)あおり止め(ﾌｯｸ)付き ・あおり止め(ﾌｯｸ)付きなし
		樹脂製建具の丁番: ※標準仕様書表16.8.3による ・
	(8.4)鍵	マスターキー: ・製作する ・製作しない
		(・)ﾏｽﾀｰｷｰの製作については施設管理者及び監督員と協議する。
		マスターキーの系統: ・ 系統
		指定建物錠の防犯性能の適用: ・する ・しない
		指定建物錠とは、建物の外部出入口用に用いるｼﾘﾝﾀﾞｰ錠・ｼﾘﾝﾀﾞｰ/ｻﾑﾀｰﾝ錠が該当
		耐ピッキング性能 ・5分未満 ・5分以上 ※10分以上
		耐鍵穴壊し性能 ・5分未満 ・5分以上 ※10分以上
		耐サムターン回し性能 ・なし(5分未満) ※あり(5分以上)
		耐カム送り解錠性能 ・なし(5分未満) ※あり(5分以上)
		耐こじ破り性能 ・なし(5分未満) ※あり(5分以上)
		出荷時の子鍵本数: (※)3本 ・ 本
		鍵箱の適用: ・必要 (・)不必要
		9. 自動ドア開閉装置
	9.2 性 能	スライディングドアの開閉性能: ・※標準仕様書表16.9.1による
		・SSLD-1 ・SSLD-2 ・DSLD-1 ・DSLD-2
		スイングドアの開閉性能: ・※標準仕様書表16.9.2による ・SWD-1 ・SWD-2
	9.3 機 構	戸の開閉方法 : ・
		センサーの種類: ・ﾏｯﾄｽｲｯﾁ ・光線ｽｲｯﾁ ・熱線ｽｲｯﾁ ・音波ｽｲｯﾁ ・光電ｽｲｯﾁ
		・ﾀｯﾁｽｲｯﾁ ・押ﾎﾞﾀﾝｽｲｯﾁ ・ﾍﾟﾀﾞﾙｽｲｯﾁ ・多機能便所ｽｲｯﾁ
		凍結防止装置: ・有 ・無
		10. 自閉式上吊り引戸装置
	10.3 性能等	性能: ※標準仕様書表16.10.1による ・
		11. 重量シャッター
	11.2 形式及び機構	シャッターの種類: ・図示 ・一般重量ｼｬｯﾀｰ ・外壁用防火ｼｬｯﾀｰ ・防煙ｼｬｯﾀｰ
		・ 屋内用防火ｼｬｯﾀｰ ・
		耐風圧性能: ・50 ・80 ・120 ・
		開閉機能 : ※上部電動式(手動併用) ・上部手動式 ・
		シャッターケース: ・図示 ※設ける ・設けない
	11.3 材 料	スラット等鋼板の種類: ・塗装溶融亜鉛めっき鋼板 ・溶融亜鉛めっき鋼板
		・ｽﾃﾝﾚｽ鋼板 ・
		溶融亜鉛めっきの付着量: ・Z12(F12) ・
		12. 軽量シャッター
	12.2 形式及び機構	開閉形式 : ※手動式 ・上部電動式(手動併用) ・
		<開閉形式>: ※手動式 ・上部電動式(手動併用) ・
		耐風圧性能: ・50 ・80 ・120 ・
		スラット等鋼板の種類: ・塗装溶融亜鉛めっき鋼板 ・ｽﾃﾝﾚｽ鋼板
		・塗装溶融亜鉛−5%ｱﾙﾐﾆｳﾑ合金めっき鋼板 ・ｱﾙﾐ押出型材

章	項 目	特記事項
16章 建具工事	12.2 形式及び機構	溶融亜鉛めっきの付着量: ・Z06(F06) ・AZ90 ・
		<パイプの材質>: ・ｽﾃﾝﾚｽ ・ｽﾁｰﾙ ・
		<パイプ径> : ・図示 ・13mm ・16mm ・19mm ・
		<パイプ間隔>: ・図示 ・70mm ・
		<格子間隔> : ・図示 ・500mm ・
	12.4 形状及び仕上げ	スラットの形状: ・ｲﾝﾀｰﾛｯｷﾝｸﾞ形 ・ｵｰﾊﾞｰﾗｯﾋﾟﾝｸﾞ形
		13. オーバーヘッドドア
	13.2 形式及び機構	セクション材料による区別: ・図示 ・下表による
		ｾｸｼｮﾝ材料による区別 / 開閉方式による種類 / 収納形式による区分 / ガイドレールの材料 ・ｽﾁｰﾙﾀｲﾌﾟ / ・ﾊﾞﾗﾝｽ式 / ・ｽﾀﾝﾀﾞｰﾄﾞ形 / ・鋼製 ・ｱﾙﾐﾆｳﾑﾀｲﾌﾟ / ・ﾁｪｰﾝ式 / ・ﾛｰﾍｯﾄﾞ形 / ・ｽﾃﾝﾚｽ製 ・ﾌｧｲﾊﾞｰｸﾞﾗｽﾀｲﾌﾟ / ・電動式 / ・ﾊｲﾘﾌﾄ形 ・ﾊﾞｰﾁｶﾙ形
		耐風圧性能: ・50 ・75 ・100 ・125
		14. ガラス
	(4.2)材 料	ガラスの種類: (・)図示 ・
		ガラス留め材
		建具の種類 / 種類・材質 (・)ｱﾙﾐﾆｳﾑ製 / (・)ｼｰﾘﾝｸﾞ材 ※ｶﾞｽｹｯﾄ ・ﾊﾟﾃ材(・1種 ・2種) (・)鋼 製 / (※)ｼｰﾘﾝｸﾞ材 ・ﾊﾟﾃ材(・1種 ・2種) ・ｽﾃﾝﾚｽ製 / ※ｼｰﾘﾝｸﾞ材 ・ﾊﾟﾃ材(・1種 ・2種) ・木 製 / ※ｼｰﾘﾝｸﾞ材 ・ﾊﾟﾃ材(・木製用 ・)
		金属性製建具用パテはJISA5752による。
	(4.3)ガラス溝の寸法、形状等	ガラス溝の大きさ: (※)標準仕様書表16.14.1による ・
	14.4 工 法	熱線反射ガラスの映像調整: ・行う ・行わない
	14.5 ｶﾞﾗｽﾌﾞﾛｯｸ積み	表面形状 : ・図示 ・ﾌﾟﾚｰﾝ ・梨地 ・ｶｽﾐ ・
		寸法、厚み: ・図示 ・190x190x95 ・145x145x95 ・
		壁用金属枠: ・図示 ・ｱﾙﾐﾆｳﾑ製 ・ｽﾁｰﾙ製 ・ｽﾃﾝﾚｽ製 ・
		補強剤 : ・図示 ・
		化粧目地の色: ・白 ・ｸﾞﾚｰ ・黒 ・
		シーリング材: ・ﾎﾟﾘｻﾙﾌｧｲﾄﾞ系 ・ｳﾚﾀﾝ系 ・ｼﾘｺﾝ系 ・
		金属製化粧カバー: ・図示 ・
		風圧力に対応した工法: ・
		目地幅: ※標準仕様書による ・
		伸縮調整目地の位置: ※標準仕様書による ・
		伸縮調整目地の仕上: ※標準仕様書による ・
17章 カーテンウォール工事		1. 一般事項
	1.3 性 能	耐風圧性能: ・
		耐震性能 : ・
		水密性能 : ・
		気密性能 : ・
		耐火性能 : ・
		耐温度差性能: ・
		遮音性能 : ・
		断熱性能 : ・
		性能の確認方法: ・
		2. メタルカーテンウォール
	2.2 材 料	金属材料の種類: ・ｱﾙﾐﾆｳﾑ ・ｽﾁｰﾙ ・
		メタルのシーリング材: ・ﾎﾟﾘｻﾙﾌｧｲﾄﾞ系 ・ｳﾚﾀﾝ系 ・ｼﾘｺﾝ系 ・
		ガラスのシーリング材: ・ﾎﾟﾘｻﾙﾌｧｲﾄﾞ系 ・ｳﾚﾀﾝ系 ・ｼﾘｺﾝ系 ・
		ガラスの構造ガスケットの形状、寸法: ・図示 ・
		断熱材: ・図示 ・

新庁舎整備事業 倉庫Ⅱ建設工事

実施図 ● 検申図

KT2-A010

名称: 建築工事 特記仕様書7

縮尺: – 日付: 2019.02

一級建築士事務所第12399号(有)香山壽夫建築研究所 東京都文京区本郷2-12-10UT本郷3F 一級建築士第65408号 佐伯和俊
構造:一級建築士事務所 東京都知事登録第56306号 株式会社 KAP 一級建築士第341678号(構造設計一級建築士第9490号) 萩生田秀之

章	項 目	特記事項
17章 カーテンウォール工事	2.3 形状及び仕上げ	製品の寸法許容差：・図示 ※標準仕様書による ・
		製品の見え掛かり部分の仕上げ：・図示 ・
		ガラス溝の寸法、形状：・図示 ※標準仕様書による ・
	2.5 取付け	ファスナー金物の取付位置、寸法許容差：・図示 ※標準仕様書による ・
		カーテンウォール部材の取付位置、寸法許容差：・図示 ※標準仕様書による ・
		3. PCカーテンウォール
	3.2 材 料	コンクリートの種類・品質：・図示 ※標準仕様書による ・
		鉄筋の種別：・図示 ※SD295A ・SD345 ・
		補強鉄線の寸法：・図示 ・φ3.2x100x100 ・φ3.2x50x50 ・
		シーリングの種類：・図示 ・
		耐火目地材：・図示 ・
		断熱材 ：・図示 ・
		サッシ枠、ゴンドラ用ガイドレール ：・図示 ・
	3.3 形状及び仕上げ	寸法許容差：・図示 ※標準仕様書による ・
		カーテンウォールの仕上げ：・図示 ※標準仕様書による ・
		構造ガスケット：・図示 ※標準仕様書による ・
	3.4 製 作	鉄筋の配筋：・図示 ・
	3.5 取付け	取付け位置の寸法許容差：・図示 ※標準仕様書による ・
	3.6 ガラス取付け	構造ガスケットの取付：・図示 ※標準仕様書による ・
18章 塗装工事		1. 一般事項
	(1.3)材 料	塗料の防火材料の指定：・図示 ・無 ・有（
		2. 素地ごしらえ

塗装面の種類	種 別
木部（不透明塗料塗り部）	(※)A種 ・B種
木部（透明系塗料塗り部）	・A種 (※)B種
鉄鋼面	・A種 ・B種 (※)C種
亜鉛メッキ鋼面	・A種 ・B種
ﾓﾙﾀﾙ、ﾌﾟﾗｽﾀｰ	・A種 ※B種
ｺﾝｸﾘｰﾄ、ALCﾊﾟﾈﾙ	・A種 (※)B種
押出成形ｾﾒﾝﾄ板	・A種 ※B種
せっこうその他のﾎﾞｰﾄﾞ	継目処理工法の場合：(※)A種 ・B種 その他の場合：・A種 (※)B種

章	項 目	特記事項
		3. 錆止め塗料塗り
	3.2 塗料種別	鉄鋼面屋内：※A種 ・B種
		亜鉛メッキ鋼面屋外：※A種 ・B種
		亜鉛メッキ鋼面屋内：※A種 ・B種 ・C種
	(3.3)錆止め塗料塗り	鉄鋼面見え掛り部分：(※)A種 ・B種
		鉄鋼面見え隠れ部分：・A種 (※)B種
		亜鉛メッキ鋼面鋼製建具面：※A種 ・B種
		亜鉛メッキ鋼面鋼製建具面以外：・A種 ※B種
		4. 合成樹脂調合ペイント塗り（SOP）
	4.2 塗料の種類	種別：※1種 ・2種
	4.3 木部塗料塗り	種別（外部）：(※)A種 ・B種
		種別（内部：多孔質広葉樹以外）：・A種 ※B種
		種別（内部：多孔質広葉樹） ：・A種 ・B種
	4.4 鉄鋼面塗料塗り	種別：・A種 (※)B種
		5. クリヤーラッカー塗り（CL）
	5.2 塗料塗り	種別：・A種 (※)B種
		6. アクリル樹脂系非水分散形塗料塗り（NAD）
	6.2 塗料塗り	種別：・A種 ※B種

章	項 目	特記事項
18章 塗装工事		(7.)耐候性塗料塗り（DP）
	(7.4)ｺﾝｸﾘｰﾄ面等塗料塗り	種別：・A種 ・B種 ・C種
		(・)コンクリート打放し面：疎水剤（ランデックスコート同等品）
		8. つや有合成樹脂エマルションペイント塗り（EP−G）
	8.2 ＊＊＊塗料塗り	コンクリート面：・A種 ※B種
		モルタル面：・A種 ※B種
		プラスター面：・A種 ※B種
		せっこうボード面：・A種 ※B種
		その他ボード面：・A種 ※B種
	8.4 鉄鋼面塗料塗り	種別：・A種 ※B種
		9. 合成樹脂エマルションペイント塗り（EP）
	9.2 塗料塗り	種別：・A種 ※B種
		10. 合成樹脂エマルション模様塗料塗り（EP−T）
	10.2 ＊＊＊塗料塗り	コンクリート面：・A種 ※B種
		モルタル面：・A種 ※B種
		プラスター面：・A種 ※B種
		せっこうボード面：・A種 ※B種
		その他ボード面：・A種 ※B種
		11. ウレタン樹脂ワニス塗り（UC）
	11.2 塗料塗り	種別：・A種 ※B種
		12. ラッカーエナメル塗り（LE）
	(12.)2 塗料塗り	種別：・A種 ※B種
		(14.) 木材保護塗料塗り（WP）
	14.2 塗料塗り	種別：・A種 ※B種
19章 内装工事		2. ビニル床シート、ビニル床タイル及びゴム床タイル張り
	2.2 材 料	ビニル床シートの材料：・図示 ・下表による ・

種 類	記号	色柄	厚さ(mm)
・発泡硬層のないﾋﾞﾆﾙ床ｼｰﾄ	※FS ・NS	※無地 ・ﾏｰﾌﾞﾙ	※2.0 ・2.5 ・
・発泡層のあるﾋﾞﾆﾙ床ｼｰﾄ （ｸｯｼｮﾝﾌﾛｱ）	・DO	・	※2.3 ・3.5 ・

ビニル床タイル、ゴム床タイルの材料：・図示 ・下表による ・

種 類		厚さ(mm)
・ｺﾝﾎﾟｼﾞｼｮﾝﾋﾞﾆﾙ床ﾀｲﾙ	半硬質(CT)	・2.0 ・
・ｺﾝﾎﾟｼﾞｼｮﾝﾋﾞﾆﾙ床ﾀｲﾙ	軟質(CTS)	・2.0 ・
・ﾎﾓｼﾞﾆｱｽﾋﾞﾆﾙ床ﾀｲﾙ(HT)		・2.0 ・
・ｺﾞﾑ床ﾀｲﾙ	・無地 ・ﾏｰﾌﾞﾙ	・4.0 ・ ・4.0 ・

◎帯電防止床シート張り ◎帯電防止床タイル張り

種類：・

性能：・体積抵抗値（1.0x109Ω）・

厚さ：・2.0mm ・4.0mm ・4.5mm ・

◎視覚障害者用床タイル張り

種類：・合成ｺﾞﾑ貼付用 ・合成ｺﾞﾑ埋込用 ・合成ｺﾞﾑ裏面CON

・せっ器質ﾀｲﾙ ・ｺﾝｸﾘｰﾄ

厚み：・2mm ・15mm ・20mm ・30mm ・

◎耐動荷重性床シート張り

種類：・

厚み：・ mm ・

ビニル幅木の厚み：※1.5mm以上 ・

章	項 目	特記事項
19章 内装工事	2.2 材 料	ビニル幅木の高さ：※60mm ・100mm ・300mm ・
		接着剤のﾎﾙﾑｱﾙﾃﾞﾋﾄﾞ放散量：※F☆☆☆☆ ・F☆☆☆ ・
	2.3 施 工	下地の工法：・図示 ※標準仕様書による ・
		熱溶接工法：・適用する ・適用しない
		3. カーペット敷き
	3.3 材 料	◎織じゅうたん
		種別：・A種 ・B種 ・C種
		パイル形状：・ｶｯﾄﾊﾟｲﾙ ・ﾙｰﾌﾟﾊﾟｲﾙ ・ｶｯﾄ/ﾙｰﾌﾟ併用
		色柄：・無地 ・柄物
		帯電性の適用：・適用しない ・適用する（人体帯電圧：※3kV以下 ・ ）
		◎タフテッドカーペット
		パイル形状：・ﾙｰﾌﾟ ・ｶｯﾄ ・
		パイル長：・図示 ・ mm
	3.3 材 料	◎ニードルパンチカーペット
		厚さ：・4mm ・7mm ・
		◎タイルカーペット

パイル形状	種 類	寸法(mm)	総厚さ(mm)
・ﾙｰﾌﾟﾊﾟｲﾙ	※第1種 ・第2種	※500x500 ・	※6.5 ・
・ｶｯﾄﾊﾟｲﾙ			
・ｶｯﾄ/ﾙｰﾌﾟ併用			

章	項 目	特記事項
	3.4 工 法	◎下敷き材
		下敷き材：※反毛フェルト第2種2号(呼厚8mm) ・
		タフテッドカーペットの工法：・ｸﾞﾘｯﾊﾟｰ工法 ・全面接着工法 ・
		タイルカーペットの敷き方（平場）：※市松敷き ・
		（階段部分）：※模様流し ・
		4. 合成樹脂塗床

種 類	仕上げ種類	備 考
・弾性ｳﾚﾀﾝ塗り床材	※平滑 ・防滑 ・つや消し	
・ｴﾎﾟｷｼ樹脂塗り床材	・薄膜流し展べ ・厚膜流し展べ：※平滑 ・防滑 ・樹脂ﾓﾙﾀﾙ：・平滑 ・防滑	

章	項 目	特記事項
	4.3 工 法	
		5. フローリング張り
	5.2 材 料	

種 類	材 種	工 法	形式寸法等(mm)LxWxt
・ﾌﾛｰﾘﾝｸﾞﾎﾞｰﾄﾞ1等	※ﾅﾗ ・ ・	・釘留め工法(根太張) ・釘留め工法(直張り) ・接着工法	・500(L)x75(W)x15(t)以上
・ﾌﾛｰﾘﾝｸﾞﾌﾞﾛｯｸ1等	※ﾅﾗ ・ ・	・釘留め工法(根太張) ・釘留め工法(直張り) ・接着工法	・303x303(L)x15(t)以上
・ﾓｻﾞｲｸﾊﾟｰｹｯﾄ1等 ・弾性ﾓｻﾞｲｸﾊﾟｰｹｯﾄ	※ﾅﾗ ・	・釘留め工法(根太張) ・釘留め工法(直張り) ・接着工法	厚さ：・6 ・7 ・8
・複合ﾌﾛｰﾘﾝｸﾞ	※ﾅﾗ ・ｻｸﾗ ・協議	・釘留め工法(根太張) ・釘留め工法(直張り) ・接着工法	・A種 ・B種 ※C種 ・A種 ・B種 ※C種 ・A種 ・B種 ※C種

章	項 目	特記事項
	5.3～5.5 工 法	
	5.6 現場塗装仕上げ	仕上げ：※ウレタン樹脂ﾜﾆｽ塗り ・ｵｲﾙｽﾃｲﾝ塗り ・既製仕上げ
		6. 畳敷き
	6.2 材 料	種別：・A種 ・B種 ・C種
		・D種（・KT−I ・KT−(監) ・KT−(企) ・KT−K ・KT−N）

新庁舎整備事業 倉庫Ⅱ建設工事

実施図 ● 検申図

KT2−A011

名称 建築工事 特記仕様書8

縮尺 − 日付 2019.02

一級建築士事務所第12399号（有）香山壽夫建築研究所 東京都文京区本郷2−12−10UT本郷3F 一級建築士第65408号 佐伯和俊

構造：一級建築士事務所 東京都知事登録第56306号 株式会社 KAP 一級建築士第341678号（構造設計一級建築士第9490号） 萩生田秀之

章	項 目	特記事項
19章 内装工事	7.2 材 料 7.3 工 法	7. せっこうボードその他ボード及び合板張り

規格名称	種 類	記 号	厚さ(mm)
木質系ｾﾒﾝﾄ板	・木毛ｾﾒﾝﾄ板 ・木片ｾﾒﾝﾄ板	・HW ・NW ・HF ・NF	・25・50 ・
せっこうﾎﾞｰﾄﾞ製品	・せっこうﾎﾞｰﾄﾞ ・ｼｰｼﾞﾝｸﾞせっこうﾎﾞｰﾄﾞ ・強化せっこうﾎﾞｰﾄﾞ ・せっこうﾗｽﾎﾞｰﾄﾞ ・化粧せっこうﾎﾞｰﾄﾞ(ﾄﾗﾊﾞｰﾁﾝ) ・化粧せっこうﾎﾞｰﾄﾞ	GB-R GB-S GB-F GB-L GB-D	・9.5・12.5 ・9.5・12.5 ・12.5・15.0 ※9.5・7 ・9.5・12.5 ・9.5・12.5
繊維強化ｾﾒﾝﾄ板	・ｹｲ酸ｶﾙｼｳﾑ板(ﾀｲﾌﾟ2)	・0.8FK ・1.0FK	・6・8・10 ・6・8・10
ﾊﾟｰﾃｨｸﾙﾎﾞｰﾄﾞ繊維板	・	・RS・VS ・DV・DO・DC	
火山性ｶﾞﾗｽ質複層板(VSﾎﾞｰﾄﾞ)	・		

7.2 材 料
7.3 工 法

◎合板

材 種	樹種、防虫・難燃・防煙処理等		厚さ(mm)	工法
・難燃合板	生地のまま又は透明塗料塗りの場合 ・ﾗﾜﾝ ・ 不透明塗料塗りの場合 ・ｼﾅ(・1級・2級) ・		・4 ・5.5 ・6 ・	・A種 ※B種
・普通合板	・ﾗﾜﾝ ・ ・ｼﾅ	・1類 ・2類	・4 ・5.5 ・6 ・9 12	・A種 ※B種
・捨張り用合板	・南洋材 ・ ・針葉樹	・型枠用 ・構造用	・9 12 ・	・A種 ※B種
・有孔合板	・ｼﾅ	・1類 ・2類	・4 ・6 ・	・A種 ※B種
・天然木化粧合板	化粧単板のそば包み ・行う ※行わない 化粧単板の厚さ ※0.3未満 ・		・4.2 ・	・A種 ※B種
・特殊加工化粧合板	表面仕上げの種類 ・ﾒﾗﾐﾝ ・ﾎﾟﾘｴｽﾃﾙ ・		・4.0 ・3.0	・A種 ※B種

せっこうボードの目地処理: ・継目処理工法 ・目透し工法 ・突付け工法

遮音シール材: ・ｱｸﾘﾙ系ｼｰﾘﾝｸﾞ材 ・ｼﾞｮｲﾝﾄｾﾒﾝﾄ

8. 壁紙張り

8.2 材 料

防火性能の指定: ・下表による ・図示 ・

品 質	検定区分	施工箇所
・ｵﾚﾌｨﾝ系	・1級 ・2級 ・	
・織物系	・1級 ・3級 ・4級 ・	
・ﾌﾟﾗｽﾁｯｸ系	・1級 ・2級 ・	

◎素地ごしらえ

モルタル面及びプラスター面 : ・A種 ※B種

せっこうボード及びその他ボード面: ・A種 ※B種

9. 断熱・防露

9.2 断熱材打込み工法

種 類	種 別	厚さ(mm)
・ﾋﾞｰｽﾞ法ﾎﾟﾘｽﾁﾚﾝﾌｫｰﾑ	・	・25 ・
・押出法ﾎﾟﾘｽﾁﾚﾝﾌｫｰﾑ	・3種:	・25 ・50
・硬質ｳﾚﾀﾝﾌｫｰﾑ	・A種 ・	・
・ﾌｪﾉｰﾙﾌｫｰﾑ	※F☆☆☆☆ ・	・

接着剤のﾎﾙﾑｱﾙﾃﾞﾋﾄﾞ放散量: ※F☆☆☆☆ ・F☆☆☆ ・

章	項 目	特記事項
19章 内装工事	9.3 断熱材現場発泡工法 ・RC部断熱材 ・屋根断熱材 木造外壁内断熱材	材料: ※吹付け硬質ｳﾚﾀﾝﾌｫｰﾑ ・ 種類: ※A種1 ・ 難燃材: ・1級 ・2級 ・3級 吹付け厚さ(mm) ・図示 ・25 ・30 ・20 ・押出法ポリスチレンフォーム3種 t25mm,50mm ・断熱材:グラスウール密度32kg/m2相当 t45mm
20章 ユニット及びその他の工事	2.2 ﾌﾘｰｱｸｾｽﾌﾛｱ	2. ユニット工事等

施工箇所	材質・形状・寸法	表面仕上材質・形状・寸法
	・ｱﾙﾐﾀﾞｲｶｽﾄ;450x450x50	・帯電防止ﾋﾞﾆﾙ床ﾀｲﾙ;450x450x2.5
	・ｽﾁｰﾙ;500x500x50	・ﾀｲﾙｶｰﾍﾟｯﾄ;500x500x6.5
	・樹脂製;500x500x50	

耐震性能: ・0.6G ・1.0G ・

所定荷重: ・3,000N ・5,000N ・

耐衝撃性能: ・0.6G ・1.0G ・

帯電防止性能: ・

漏えい抵抗: ・

◇試 験

耐荷重性能: ※標準仕様書による ・

耐衝撃性能: ※標準仕様書による ・

ローリングロード性能: ※標準仕様書による ・

耐燃焼性能: ※標準仕様書による ・ 適用地震時水平力

寸法精度: ※±0.5mm ・

2.3 可動間仕切

構造形式による種類	・S ・P ・SP	・M ・O ・F	
構成材の種類	・N ・D ・W	・AL ・ST ・E	・W ・st
遮音性	・0 ・12 ・20 ・28 ・36		

パネルのﾎﾙﾑｱﾙﾃﾞﾋﾄﾞ放散量: ※F☆☆☆☆ ・F☆☆☆ ・

パネル表面仕上げ: ・

取付建具形状・寸法: ・図示 ・

2.4 移動間仕切

パネルの操作方法による種類: ・

パネル表面材の材質、仕上げ: ・

パネル圧接装置の操作方法 : ・

遮音性能: ・

ハンガーレール取付け下地の補強: ※標準仕様書による ・

あと施工アンカーの材質、寸法等: ・

2.5 トイレブース

パネル表面材材質: ・ﾒﾗﾐﾝ樹脂化粧板 ・ﾎﾟﾘｴｽﾃﾙ樹脂系化粧板 ・

パネルのﾎﾙﾑｱﾙﾃﾞﾋﾄﾞ放散量: ※F☆☆☆☆ ・F☆☆☆ ・

脚部の形状: ※幅木型 ・足金物型

2.6 階段滑り止め

材質: ・ｽﾃﾝﾚｽ製ﾀｲﾔ入り ・床材一体型ﾋﾞﾆﾙｼｰﾄ

形状・寸法: ・図示 ・

取付工法: ※接着工法 ・埋込み工法

2.9 鏡

厚さ: ・5mm ・6mm ・

2.10 表 示

種 類	形状・寸法	材 質
・衝突防止表示	・図示 ・	・ｽﾃﾝﾚｽ ・
・室名札	・図示 ・≒80x200	・ｱｸﾘﾙ板/ｼﾙｸｽｸﾘｰﾝ ・ｱｸﾘﾙ板/ｶｯﾃｨﾝｸﾞｼｰﾄ
・ﾋﾟｸﾄｸﾞﾗﾌ	・図示 ・≒200x200	・ｱｸﾘﾙ板/ｼﾙｸｽｸﾘｰﾝ
・案内板	・図示 ・	・ｱｸﾘﾙ板/ｼﾙｸｽｸﾘｰﾝ ・ｱｸﾘﾙ板/ｶｯﾃｨﾝｸﾞｼｰﾄ
・階数表示板	・図示 ・≒250x250	・ｱｸﾘﾙ板/ｼﾙｸｽｸﾘｰﾝ ・ｱｸﾘﾙ板/ｶｯﾃｨﾝｸﾞｼｰﾄ
・非常用進入口	・図示 ・	・ｶｯﾃｨﾝｸﾞｼｰﾄ

2.11 煙突ライニング

ライニング材: ・ｿﾞﾗｲﾄ系珪酸ｶﾙｼｳﾑﾗｲﾆﾝｸﾞ材 ・心材付繊維積層ﾗｲﾆﾝｸﾞ材

適用安全使用温度: ・

章	項 目	特記事項		
20章 ユニット及びその他の工事	2.12 ブラインド	形 式	・横型ﾌﾞﾗｲﾝﾄﾞ	・縦型ﾌﾞﾗｲﾝﾄﾞ
		ｽﾗｯﾄの材種	・ｱﾙﾐﾆｳﾑ合金	・ｱﾙﾐｽﾗｯﾄ ・ｸﾛｽｽﾗｯﾄ
		開閉方式、操作方式	・ｷﾞﾔ式 ・ｺｰﾄﾞ式	・2本操作ｺｰﾄﾞ方式 ・
		ｽﾗｯﾄ成形幅(mm)	・25	・100 ・80

2.13 ロールｽｸﾘｰﾝ

操作方法: ・ﾌﾟﾙｺｰﾄﾞ式 ・ﾁｪｰﾝ式

巾・高さ: ・図示 ・

材種・品質等: ・図示 ・

2.14 ｶｰﾃﾝ及びｶｰﾃﾝﾚｰﾙ

カーテンレール: ・図示 ・ｼﾝｸﾞﾙ ・ﾀﾞﾌﾞﾙ

きれ地の品質	ひだの種類	形式	引分装置	施工箇所
・	・ﾌﾗﾝｽひだ ・つまひだ	・片引 ・引分	・有 ・無	
・	・ﾌﾗﾝｽひだ ・つまひだ	・片引 ・引分	・有 ・無	

暗幕用カーテンの重なり: ・300mm以上 ・

ﾚｰﾙ、ﾌﾞﾗｹｯﾄ強さ区分	ﾚｰﾙ材料区分	ﾚｰﾙし上	形 状
・10-90	・AS ・AP	・ｱﾙﾏｲﾄ	・角形
・10-60	・SUS ・S	・2次電解着色	・

3. プレキャストコンクリート工事

3.2 材 料

補強鉄線の寸法: ・図示 ・φ3.2x100x100 ・φ3.2x50x50 ・

3.3 製 作

コンクリートの設計基準強度: ・図示 ※標準仕様書による ・

鉄筋の配筋: ・図示 ※標準仕様書による ・

3.4 養生その他

取付方法: ・図示 ・

4. 間知石及びコンクリート間知ブロック積み

4.2 材 料

間知石の材種: ・竜岩石 ・御影石 ・

コンクリート間知ブロック面の形状: ・長方形 ・正方形 ・H型 ・六角形

JISによる質量区分: ※ﾌﾞﾛｯｸA ・ﾌﾞﾛｯｸB

4.3 工 法

練積みの工法: ※谷積み ・布積み

目塗り: ・行う ・行わない

伸縮目地材の材種及び厚さ: ・図示 ・ｴﾗｽﾀｲﾄt=10

＊. その他工事

＊.1 階段手すり

笠木 : ・ﾋﾞﾆｰﾙ製 ・造作用集成材 ・

受け材 ・ｽﾁｰﾙ ・ｽﾃﾝﾚｽ

＊.2 ｶｰﾃﾝ・ﾌﾞﾗｲﾝﾄﾞ

材種 : ・木製 ・ｽﾁｰﾙ製 ・ｱﾙﾐ製 ・

ﾎﾞｯｸｽ

ボックスの種類 ・ｶｰﾃﾝ ・ﾌﾞﾗｲﾝﾄﾞ ・ｽｸﾘｰﾝ ・

＊.3 ロールｽｸﾘｰﾝ

操作方法: ・ﾌﾟﾙｺｰﾄﾞ式 ・ﾁｪｰﾝ式

材種、品質等: ・図示 ・

巾・高さ: ・図示 ・

＊.4 黒板及び

ﾎﾜｲﾄﾎﾞｰﾄﾞ

黒板の種類／色彩／枠: ・焼付け／緑／ｱﾙﾐﾆｳﾑ合金 ・焼付／黒／木製

・

ホワイトボードの種類／色彩／枠: ・ほうろう／白／ｱﾙﾐﾆｳﾑ合金 ・

＊.5 建物銘板

種別: ・館名板 ・融資館名板 ・

寸法／材質／仕上げ: ・

文字数／字体: ・ 字程度／ 体

＊.6 案内板

枠材／形状: ・図示 ・ｽﾃﾝﾚｽ製／

＊.7 掲示板

枠材／形状: ・ｱﾙﾐ製／t=1.0mm ・木製／t= ・

仕上材: ・特殊発泡加工ﾋﾞﾆﾙ貼(周囲押縁) ・

＊.8 ｺｰﾅｰﾋﾞｰﾄﾞ

材種: ・図示 ・ｽﾃﾝﾚｽ ・ｱﾙﾐﾆｳﾑ合金 ・真鋳

高さ: ・図示 ・1.8m程度 ・天井まで ・

＊.9 天井見切り縁

材質: ・ｱﾙﾐﾆｳﾑ製 ・塩化ﾋﾞﾆｰﾙ製 ・

＊.10床見切押え金物

材質: ・ｽﾃﾝﾚｽ製 ・

形状: ・への字型;幅 mm ・ﾊｯﾄ型;40mmx20mm ・目地棒型;6mm

＊.11 ｼﾞｮｲﾅｰ

材質: ・塩化ﾋﾞﾆｰﾙ製 ・

＊.12 既製間仕切

材種: ・図示 ・化粧鋼板製 ・

組立形式: ・図示 ・ﾊﾟﾈﾙ式 ・ｽﾀｯﾄﾞ式 ・

新庁舎整備事業 倉庫Ⅱ建設工事

実施図 ●
確申図

KT2-A012

名称 建築工事 特記仕様書9

縮尺 –

日付 2019.02

審図

一級建築士事務所第12399号(有)香山壽夫建築研究所 東京都文京区本郷2-12-10UT本郷3F 一級建築士第65408号 佐伯和俊

構造:一級建築士事務所 東京都知事登録第56306号 株式会社 KAP 一級建築士第341678号(構造設計一級建築士第9490号) 萩生田秀之

章	項 目	特記事項
20章 ユニット及びその他の工事	*.12 既製間仕切	耐防火性能: ・不燃 ・準不燃 ・難燃
	*.13 ｱｺｰﾃﾞｨｵﾝﾄﾞｱ	表面材: ・図示 ・ﾋﾞﾆﾙﾚｻﾞｰ張り ・
		形式: ・図示 ・両開 ・片開
		折りたたみ幅(mm): ・図示 ・
	*.14 ｽﾗｲﾃﾞｨﾝｸﾞﾄﾞｱ	パネル厚さ: ・図示 ・
		表面仕上げ: ・図示 ・
		接点の接床処置: ・有 ・無
	*.15 天井点検口	材質等: ・ｱﾙﾐﾆｳﾑ既製品(内外枠共)
		寸法(mm): ・450×450 ・600×600
	*.16 床下点検口	材質: ・ｽﾃﾝﾚｽ既製品(目地材質共)
		寸法(mm): ・450×450 ・600×600
	*.17 屋上点検口	
	*.18 換気扇取付け枠	材質: ・木製【・米桧 ・米栂】・ｱﾙﾐﾌﾟﾚｰﾄ【厚さ: ・3.0mm ・ 】
	*.19 換気口	材質等: ・硬質塩化ﾋﾞﾆｰﾙ管50φ(内側ｽﾃﾝﾚｽ製防虫網外側井桁付ｴﾙﾎﾞｰ型)
		◎床下換気金物
		・鋳鉄(ｺｰﾙﾀｰﾙ焼付厚9mm) ・樹脂製
		・ｽﾃﾝﾚｽ金網裏打ち ・裏打ちなし
		◎レジスター、固定ガラリ
		・既製品(外部水切り付固定ｶﾞﾗﾘ 内部ｽﾃﾝﾚｽ製防虫網〔外壁取付時〕)
	*.20 ﾏﾝﾎｰﾙｶﾊﾞｰ	種別: ・一般型 ・防水型 ・防臭型 ・
		性能: ・防水防臭型【・化粧型 ・一般用】・
		鍵: ・有 ・無
	*.21 沓拭きマット	材種: ・塩化ﾋﾞﾆｰﾙ又はｺﾞﾑ／受枠;ｽﾃﾝﾚｽ鋼 ・硬質ｱﾙﾐﾆｳﾑ合金
		・ｽﾃﾝﾚｽ板
		水抜パイプ: ・有 ・無
	*.22 浴 槽	種別: ・A種 ・B種(・ﾎｰﾛｰ ・FRP ・ｽﾃﾝﾚｽ)
	*.23 すのこ	材種: ・木製【・ﾋﾉｷ ・ﾋﾊﾞ ・米桧 ・台桧】・合成樹脂(市場品)
	*.24 屋上丸環	材種: ・ｽﾃﾝﾚｽ鋼 ・
	*.25 避難ハッチ等	材種: ・ｽﾃﾝﾚｽ(ｱﾗｰﾑはﾈｼﾞ巻き式)
21章 排水工事	2.1 材 料	2. 屋外雨水排水
		材種: ・遠心力鉄筋ｺﾝｸﾘｰﾄ管 ・硬質ﾎﾟﾘ塩化ﾋﾞﾆﾙ管【・VP ・VU】
		・ﾘｻｲｸﾙ硬質ﾎﾟﾘ塩化ﾋﾞﾆﾙ3層管(RS-VU)
		・排水用硬質ﾎﾟﾘ塩化ﾋﾞﾆﾙ管継手(DV)
		・屋外排水設備用硬質塩化ﾋﾞﾆﾙ管継手(VU継手) ・
		管径: ・図示 ・
		側溝(形状・寸法): ・図示 ・
		側塊(形状・寸法): ・図示 ・
		排水桝(形状・寸法): ・図示 ・現場打ち角型;600x600
		・ｺﾝｸﾘｰﾄ既製桝;300x300 ・
		◎桝蓋
		材質: ・図示 ・鋳鉄製ｸﾞﾚｰﾁﾝｸﾞ ・鋼製ｸﾞﾚｰﾁﾝｸﾞ ・ｽﾃﾝﾚｽ製ｸﾞﾚｰﾁﾝｸﾞ
		・ｺﾝｸﾘｰﾄ製 ・鋳鉄製 ・
		種別: ・図示 ・ﾏﾝﾎｰﾙ蓋 ・床化粧ﾏﾝﾎｰﾙ蓋 ・格子蓋 ・
		種類: ・図示 ・水封型 ・簡易密閉型 ・密閉型 ・
		適用荷重: ・図示 ・歩行用 ・T-2 ・T-6 ・T-14 ・T-20 ・T-25
		メインバーピッチ等: ・図示 ・普通目 ・細目／ﾌﾟﾚｰﾝ ・細目／ﾉﾝｽﾘｯﾌﾟ
		◎側溝グレーチング
		材質: ・図示 ・鋼製 ・ｽﾃﾝﾚｽ製 ・
		適用荷重: ・図示 ・歩行用 ・T-2 ・T-6 ・T-14 ・T-20 ・T-25
		メインバーピッチ等: ・図示 ・普通目 ・細目／ﾌﾟﾚｰﾝ ・細目／ﾉﾝｽﾘｯﾌﾟ
		地業の材料: ・砂利地業【・再生ｸﾗｯｼｬｰﾗﾝ ・切込砕石 ・切込砂利 】
		地業の材料: ・砂地業【・山砂 ・川砂 ・砕砂 】
		砂のふるい分け試験: ・適用する ・適用しない
		埋戻し材料: ・A種 ※B種 ・C種 ・D種

章	項 目	特記事項
21章 排水工事	2.2 施 工	盛土地盤等の施工法: ・図示 ・
		継手の工法: ・図示 ・
		◎遠心力鉄筋コンクリート管
		基床の厚さ: ・図示 ・
		基床の種類: ・図示 ・
		◎硬質ポリ塩化ビニル管
		基床の厚さ: ・図示 ・
		基床の種類: ・図示 ・
		継手の種類: ※接着材 ・ゴム輪 ・
		3. 街きょ、縁石及び側溝
	3.1 材 料	縁石の形状・寸法: ・図示 ・
		L形側溝の形状・寸法: ・図示 ・
		U形側溝の形状・寸法: ・図示 ・
		U形側溝の蓋の形状・寸法: ・図示 ・
		ｺﾝｸﾘｰﾄの種別: ※無筋ｺﾝｸﾘｰﾄ ・図示 ・
		ｺﾝｸﾘｰﾄの材料強度: ※18N/mm2 ・21N/mm2 ・図示 ・
		地業の材料: ・砂利地業【・再生ｸﾗｯｼｬｰﾗﾝ ・切込砕石 ・切込砂利 】
		砂利地業の厚み: ※100mm ・図示 ・
		地業の材料: ・砂地業【・山砂 ・川砂 ・砕砂 】
		砂地業の厚み: ※100mm ・図示 ・
22章 舗装工事		2. 路 床
	2.2 路床の構成	凍上抑制層の適用: ・適用しない ・適用する
	及び仕上り	厚さ: ・車道部 mm ・歩道部 mm
		透水性舗装のフィルター層の適用: ・適用しない ・適用する
		厚さ: ・車道部 mm ・歩道部 mm
		路床安定処理の適用: ・適用しない ・適用する
		方法: ・添加材による処理 ・図示 ・
	2.3 材 料	盛土の種別: ・A種 ・B種 ・C種 ・D種
		路床安定処理用添加材料: ・普通ﾎﾟﾙﾄﾗﾝﾄﾞｾﾒﾝﾄ ・高炉ｾﾒﾝﾄB種 ・ﾌﾗｲｱｯｼｭｾﾒﾝﾄ
		・消石灰【・特号 ・1号】・生石灰【・特号 ・1号】
		ジオテキスタイルの適用: ・適用しない ・適用する;
	2.5 試 験	路床土のCBR試験: ・行わない ・行う【・乱した土 ・乱さない土】
		路床締固め度試験: ・行う ・行わない
		現場CBR試験: ・行わない ・行う
		3. 路 盤
	3.2 路盤の厚さ	歩道部の路盤の厚さ: ・図示 ・
	及び仕上り	車道部の路盤の厚さ: ・図示 ・
	3.3 材 料	路盤の材料: ・砕石【・ｸﾗｯｼｬﾗﾝ ・粒度調整砕石】
		・再生材【・ｸﾗｯｼｬﾗﾝ ・粒度調整砕石】
		・ｸﾗｯｼｬﾗﾝ鉄鋼ｽﾗｸﾞ ・
		4. アスファルト舗装
	4.2 舗装の構成	舗装の構成及び厚さ: ・図示 ・
	及び仕上り	車道部の基層の適用: ・適用しない ・適用する
		舗装の平坦性: ・図示 ※標準仕様書表22.4.2による ・
	4.4 配合その他	加熱アスファルト混合物等の種類:
		表層: ・密粒度ｱｽﾌｧﾙﾄ混合物 ・細粒度ｱｽﾌｧﾙﾄ混合物
	4.5 施 工	シールコートの適用: ・適用しない ・適用する
	4.6 試 験	アスファルト混合物の抽出試験: ・行う ・行わない
		5. コンクリート舗装
	5.2 舗装の構成	舗装の構成及び厚さ: ・図示 ※標準仕様書表22.5.1による ・
	及び仕上り	寒冷地の縁部立下り寸法: ・図示 ・

章	項 目	特記事項
22章 舗装工事	5.3 材 料	◎車道部コンクリート
		設計基準強度(車道部): ※24N/mm2 ・27N/mm2 ・
		スランプ: ・5cm ※8cm ・12cm ・
		粗骨材の最大寸法: ・20mm ・25mm ・40mm ・
		寒冷期舗装の早強セメントの使用: ・使用する ・使用しない
		加熱施工式注入目地材: ※低弾性ﾀｲﾌﾟ ・高弾性ﾀｲﾌﾟ
		◎歩道部コンクリート
		設計基準強度(歩道部): ※18N/mm2 ・21N/mm2 ・
		スランプ: ・5cm ※8cm ・12cm ・
		粗骨材の最大寸法: ・20mm ・25mm ・
		転圧コンクリート舗装: ・
		寒冷期舗装の早強セメントの使用: ・使用する ・使用しない
		加熱施工式注入目地材: ※低弾性ﾀｲﾌﾟ ・高弾性ﾀｲﾌﾟ
	5.4 施 工	目地の種類及び間隔: ・図示 ※標準仕様書表22.5.4による ・
		目地の構造: ・図示 ※標準仕様書図22.5.1による ・
		6. カラー舗装
	6.2 舗装の構成	◎車道部
	及び仕上り	カラー舗装の種類: ・加熱系【・ｱｽﾌｧﾙﾄ混合物 ・石油樹脂系混合物】・図示
		・常温系【・ﾆｰﾄ工法 ・塗布工法】・図示
		常温系カラー舗装の下部: ・ｱｽﾌｧﾙﾄ舗装 ・ｺﾝｸﾘｰﾄ舗装
		結合材による種類: ・図示 ・
		車道部の基層の適用: ・適用しない ・適用する
		◎歩道部
		カラー舗装の種類: ・加熱系【・ｱｽﾌｧﾙﾄ混合物 ・石油樹脂系混合物】・図示
		・常温系【・ﾆｰﾄ工法 ・塗布工法】・図示
		常温系カラー舗装の下部: ・ｱｽﾌｧﾙﾄ舗装 ・ｺﾝｸﾘｰﾄ舗装
		結合材による種類: ・図示 ・
		車道部の基層の適用: ・適用しない ・適用する
	6.3 材 料	添加骨材: ・着色骨材; ・自然石;
	6.4 配合その他	石油樹脂系顔料の添加量: ・製造メーカー仕様による ・図示 ・
		ニート工法の配合: ・製造メーカー仕様による ・図示 ・
		塗布工法の配合: ・製造メーカー仕様による ・図示 ・
		7. 透水性アスファルト舗装
	7.2 舗装の構成	舗装の厚さ: ・車道部【・50mm ・ 】・歩道部【・30mm ・ 】
	及び仕上り	舗装の平坦性: ・図示 ※標準仕様書表22.4.1による ・
	7.3 材 料	アスファルトの種類(車道部): ・図示 ※ﾎﾟﾘﾏｰ改質ｱｽﾌｧﾙﾄ(特)型
		・ﾎﾟﾘﾏｰ改質ｱｽﾌｧﾙﾄ(III)型 ・
		アスファルトの種類(歩道部): ・図示 ※ｽﾄﾚｰﾄｱｽﾌｧﾙﾄ
		8. ブロック系舗装
	8.2 舗装の構成	コンクリート平板舗装の目地材: ※砂 ・ﾓﾙﾀﾙ
	及び仕上り	舗石舗装の基層及び厚さ: ・ｺﾝｸﾘｰﾄ版【厚さ: ※70mm ・図示 ・ 】
		・ｱｽﾌｧﾙﾄ混合物【厚さ: ※50mm ・図示 ・ 】
		舗装仕上り面の平坦性: ・図示 ※標準仕様書による ・
	8.3 材 料	コンクリート平板舗装の種類／寸法: ※N300 ・
		舗石の種類／寸法: ※2等品 ・
		ジオテキスタイルの適用: ・適用しない ・適用する;
		9. 砂利敷き
	9.2 材 料	種別(通路): ※A種 ・B種
		種別(建物周囲): ・A種 ※B種

新庁舎整備事業 倉庫Ⅱ建設工事

実施図 ● 確申図

KT2-A013

名称 建築工事 特記仕様書10

縮尺 – 日付 2019.02

一級建築士事務所第12399号(有)香山壽夫建築研究所 東京都文京区本郷2-12-10UT本郷3F 一級建築士第65408号 佐伯和俊
構造:一級建築士事務所 東京都知事登録第56306号 株式会社 KAP 一級建築士第341678号(構造設計一級建築士第9490号) 萩生田秀之

章	項 目	特記事項
23章 植栽及び屋上緑化工事		2. 植栽基盤
	2.2 植栽基盤一般	有効土層として整備する面積／厚さ: ・図示 ※標準仕様書表23.2.1による
		基盤浸透水排水施設の設置: ・設置する ・設置しない
		排水施設: ・図示 ・暗渠 ・開渠 ・排水層 ・縦穴排水 ・
		植栽基盤整備工法(樹木): ※A種 ・B種 ・C種 ・D種
		植栽基盤整備工法(芝、地被類): ・A種 ※B種 ・C種 ・D種
		土壌改良の適用: ・適用する ・適用しない
	2.3 材 料	植込み用土: ・現場発生の良質土 ・客土
		土壌改良材: ・ﾊﾞｰｸ堆肥 ・発酵下水汚泥ｺﾝﾎﾟｽﾄ ・
		バーク堆肥の場合の緩効性肥料の適用: ・適用しない ・適用する;
		3. 植 樹
	3.2 材 料	樹木の樹種／寸法／株立ち数等: ・図示 ・
		支柱材: ※丸太【・杉 ・桧 ・松 ・ 】・竹
		支柱材の防腐処理方法: ※加圧式防腐処理 ・焼き丸太処理 ・
		幹巻き用材料: ※幹巻き用ﾃｰﾌﾟ ・わら及びこも
	3.3 新植の工法	支柱の工法: ・図示 ・添え柱形 ・鳥居形 ・八掛形 ・
	3.4 新植樹木の枯補償	補償期間: ※引渡しの日から1年 ・
	3.6 移植樹木の枯損処置	補償期間: ※引渡しの日から1年 ・
		4. 芝張り、吹付けは種及び地被類
	4.2 材 料	芝の種類: ※ｺｳﾗｲｼﾊﾞ ・ﾉｼﾊﾞ ・
		吹付けは種用種子の種類／量: ※標準仕様書による ・洋芝類(g/m2)
		地被類の樹種／芽立数／コンテナ径／コンテナ数: ・図示 ・
	4.3 芝張りの工法	芝張りの工法(平地): ※目地張り ・べた張り
		芝張りの工法(法面): ・目地張り ※べた張り
	4.7 芝張り***	
	***の枯補償	補償期間: ※引渡しの日から1年 ・
		5. 屋上緑化
	5.2 植栽基盤	◎屋上緑化システム
		土壌層の厚さ: ・
	5.3 材 料	◎屋上緑化システム
		排水層: ・軽量骨材 ・板状成型品
		土壌層: ・人工軽量土 ※改良土
		◎屋上緑化軽量システム
		樹木、芝及び地被類の樹種／寸法／株立ち数等: ・図示 ・
		見切り材、舗装材、水抜き管、マルチング材等: ・図示 ・
	5.4 工 法	建設省告示第1458号に対応した工法: ・
		支柱の設置／形式等: ・設置しない ・設置する;
		灌水装置の設置／種類: ・設置しない ・設置する;
	5.5 新植樹木、芝及び	
	地被類の枯補償	新植樹木の補償期間: ※引渡しの日から1年 ・
		芝及び地被類の補償期間: ※引渡しの日から1年 ・

章	部 位	メーカー・品名・品種・品番	備 考
指定メーカー等リスト			

章	項 目	業者名・連絡先	備 考
指定工事／業者等リスト			

章	項 目	摘 要	備 考
施主支給品リスト			

新庁舎整備事業 倉庫Ⅱ建設工事

実施図 ● 検申図

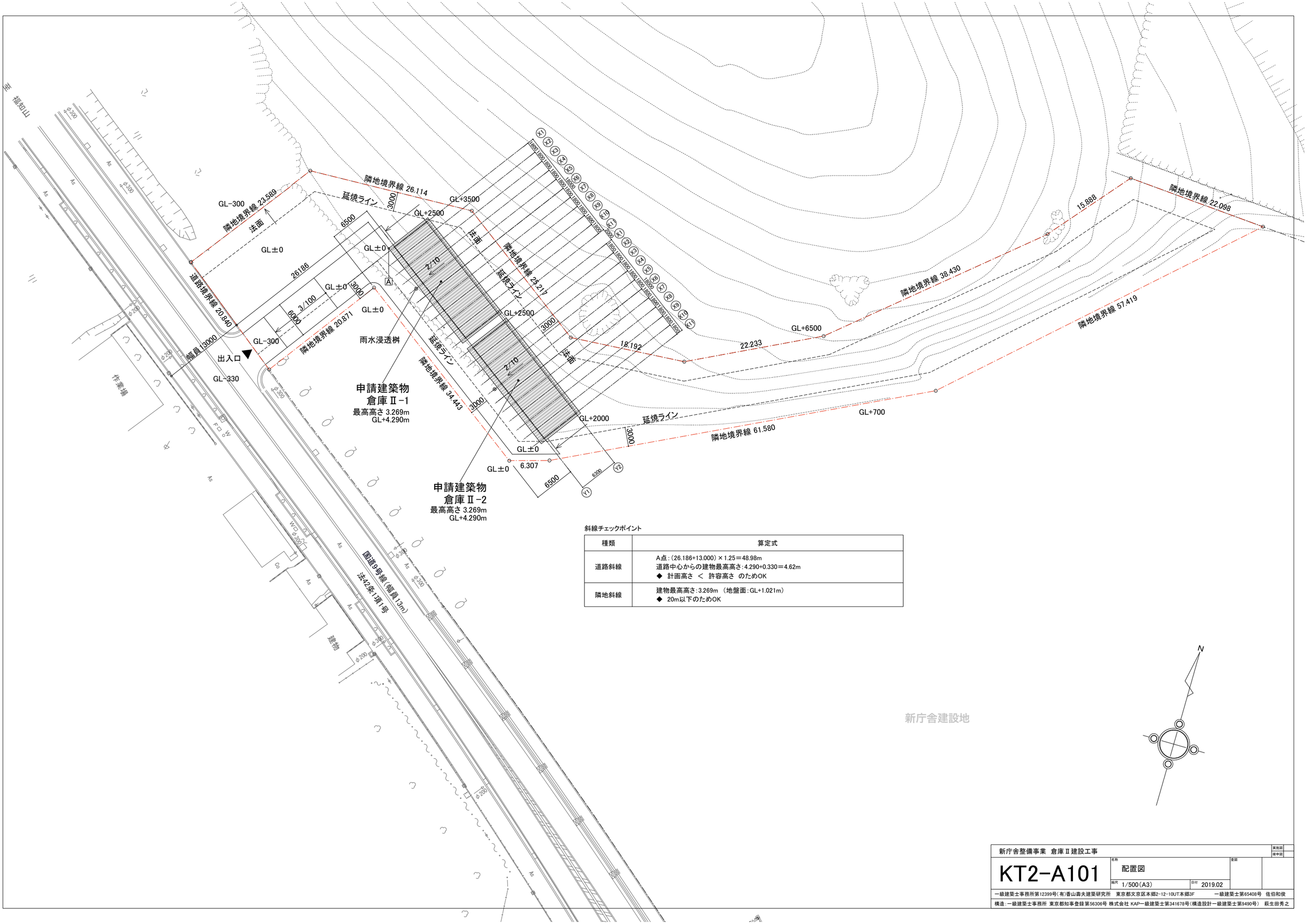
KT2-A014

名称 建築工事 特記仕様書11

縮尺 – 日付 2019.02 書図

一級建築士事務所第12399号(有)香山壽夫建築研究所 東京都文京区本郷2-12-10UT本郷3F 一級建築士第65408号 佐伯和俊

構造:一級建築士事務所 東京都知事登録第56306号 株式会社 KAP 一級建築士第341678号(構造設計一級建築士第9490号) 萩生田秀之



斜線チェックポイント

種類	算定式
道路斜線	A点：(26.186+13.000) × 1.25＝48.98m 道路中心からの建物最高高さ：4.290+0.330＝4.62m ◆ 計画高さ ＜ 許容高さ のためOK
隣地斜線	建物最高高さ：3.269m （地盤面：GL+1.021m） ◆ 20m以下のためOK

新庁舎整備事業 倉庫Ⅱ建設工事

実施図
確申図

KT2-A101

名称 配置図

縮尺 1/500(A3)

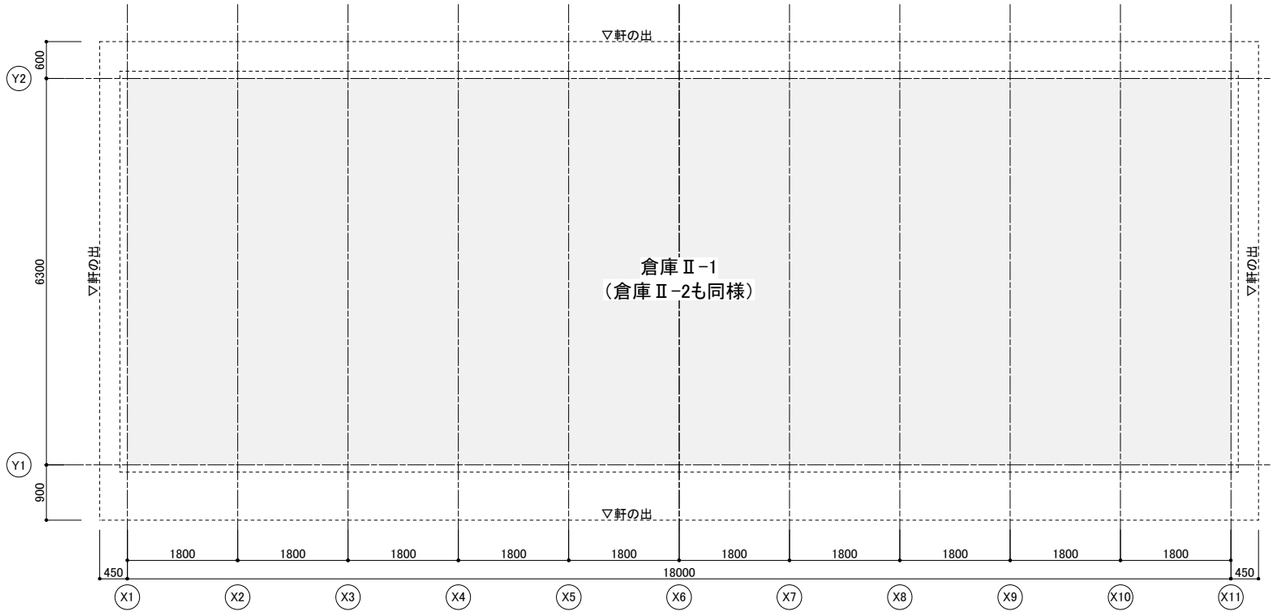
日付 2019.02

変更

一級建築士事務所第12399号(有)香山壽夫建築研究所 東京都文京区本郷2-12-10UT本郷3F 一級建築士第65408号 佐伯和俊

構造：一級建築士事務所 東京都知事登録第56306号 株式会社 KAP一級建築士第341678号(構造設計一級建築士第9490号) 萩生田秀之

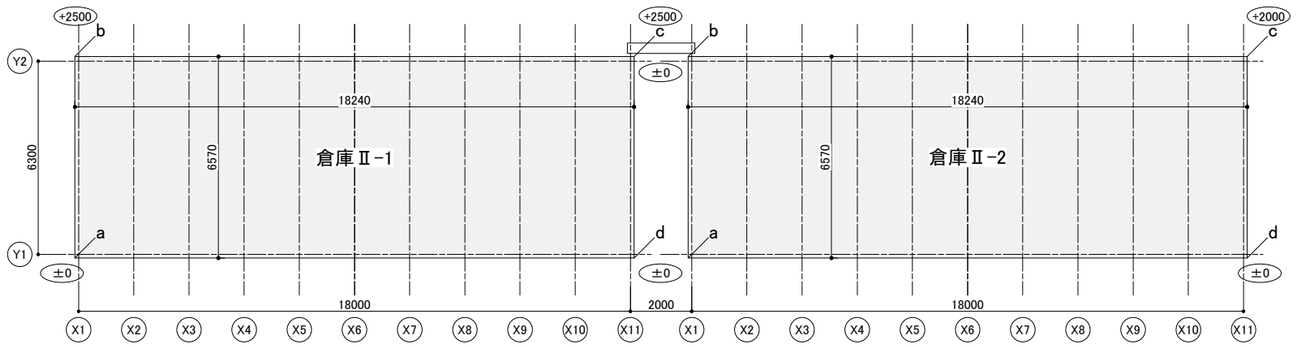
床面積求積図 S:1/100



面積表

記号	算定式	面積(㎡)
倉庫Ⅱ-1	18.000×6.300	113.40
倉庫Ⅱ-2	18.000×6.300	113.40
延床面積		226.80㎡
建築面積		226.80㎡

地盤面算定図 S:1/200



地盤面算定表

記号	長さ	高さ	1/2	面積(㎡)
倉庫Ⅱ-1				
a-b	6570	0 + 2500	0.5	8.212
b-c	18240	2500 + 2500	0.5	45.600
c-d	6570	0 + 0	0.5	0
d-a	18240	0 + 0	0.5	0
倉庫Ⅱ-2				
a-b	6570	0 + 0	0.5	0
b-c	18240	2500 + 2000	0.5	41.040
c-d	6570	2000 + 0	0.5	6.570
d-a	18240	0 + 0	0.5	0
合計	99.240			101.422
合計面積/周長				1.021
地盤面				GL+1.021m

新庁舎整備事業　倉庫Ⅱ建設工事

実施図
確申図

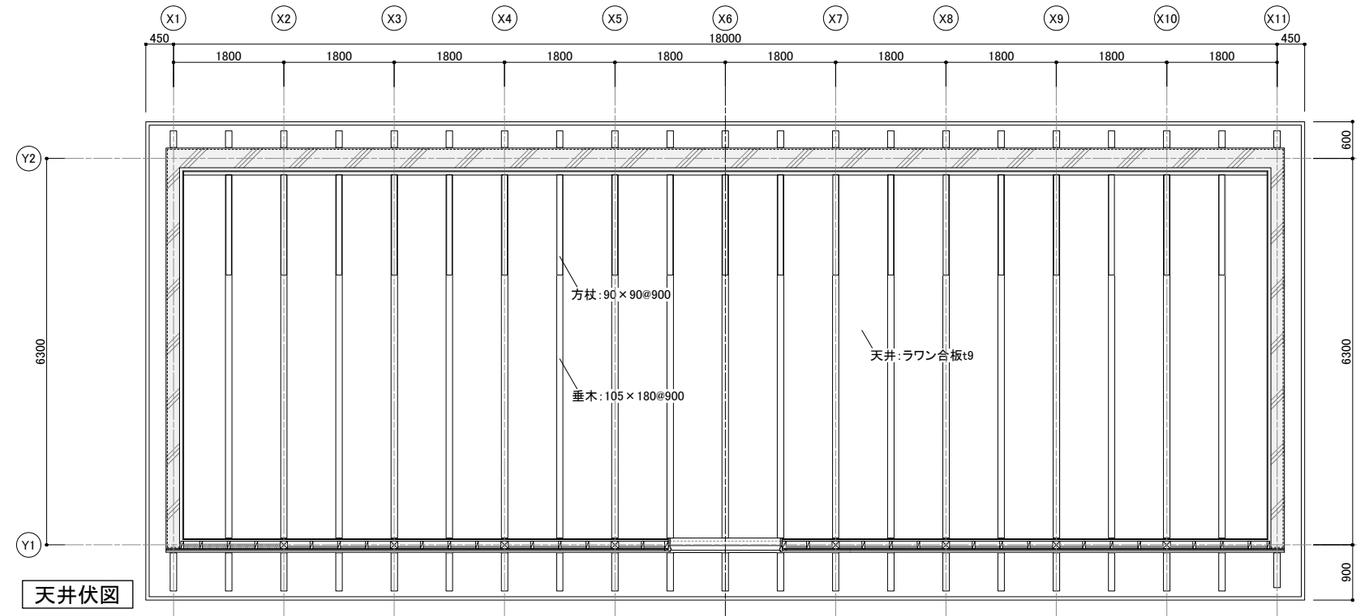
KT2-A102

名称 求積図/地盤面算定

縮尺 1/150(A1) 1/100(A3)　日付 2019.02

変図

一級建築士事務所第12399号(有)香山壽夫建築研究所　東京都文京区本郷2-12-10UT本郷3F　一級建築士第65408号　佐伯和俊
構造:一級建築士事務所 東京都知事登録第56306号 株式会社 KAP一級建築士第341678号(構造設計一級建築士第9490号)　萩生田秀之



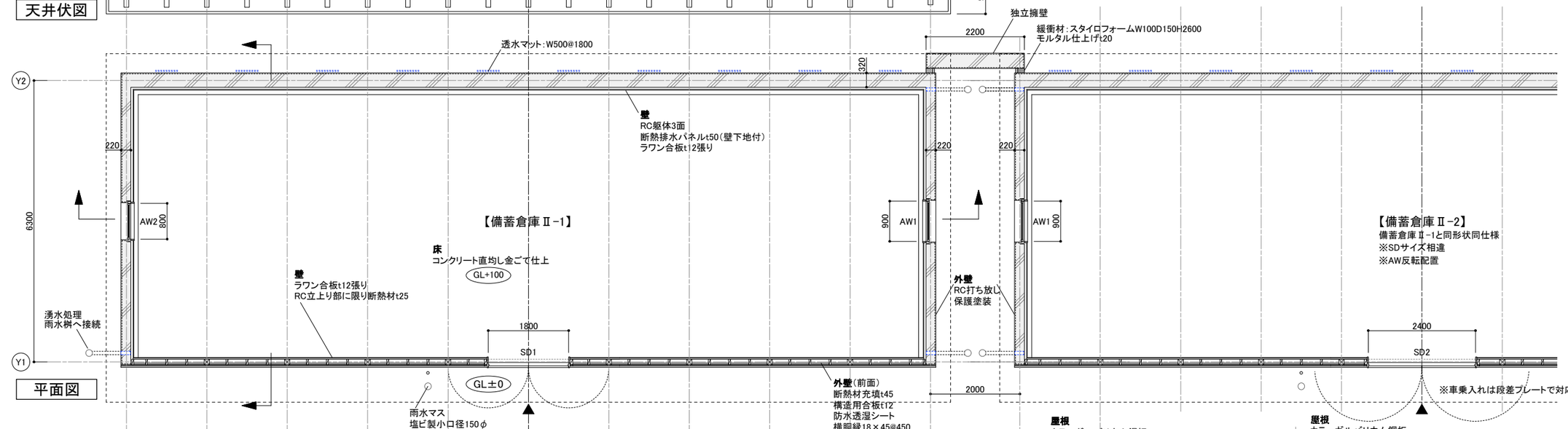
天井伏図

外部仕上表	
部位	仕上げ
屋根	カラーガルバリウム鋼板t0.4瓦棒葺き アスファルトルーフィング22kg 構造用合板t12(野地板) 屋根垂木45×45の間に断熱材充填t45
樋	軒樋:ガルバリウム鋼板 半丸 竪樋:ガルバリウム鋼板 φ60
外壁(木造)	竪板張りt15本実継ぎ 浸透性保護塗装 横胴縁18×45@450 防湿防水シート 構造用合板t12 柱間断熱材充填t45
外壁(RC造)	RC化粧打ち放し 保護塗装

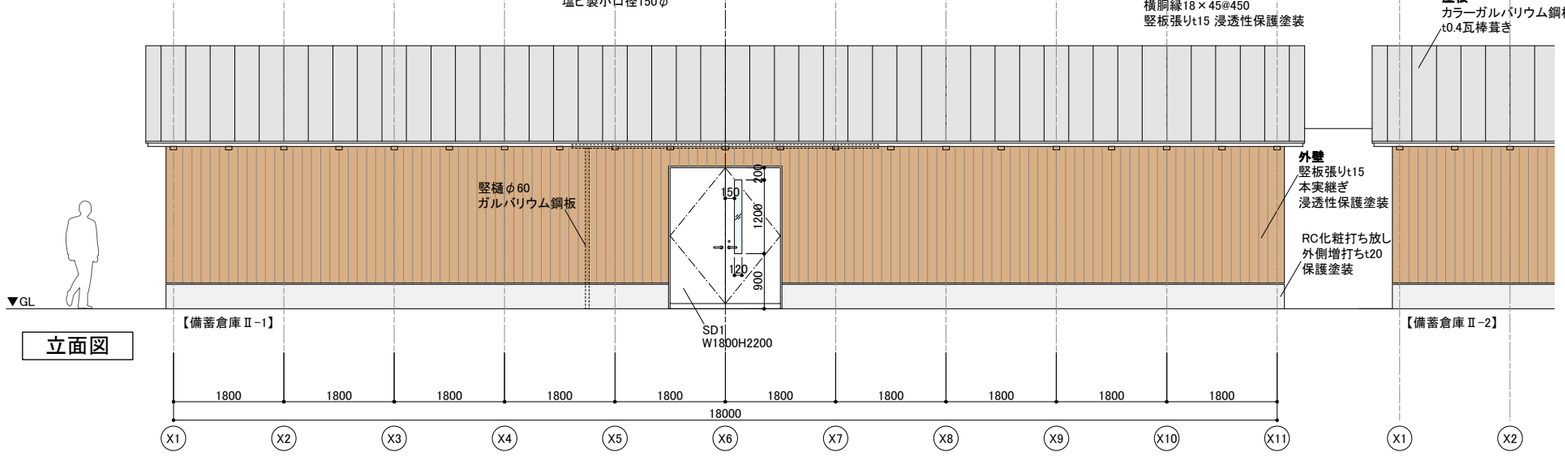
※外部木部は特記なき限り、浸透性保護塗料塗りとする

内部仕上表	
部位	仕上げ
床	コンクリート直均し金ごて
巾木	
壁	ラワン合板t12張り
天井	ラワン合板t9張り

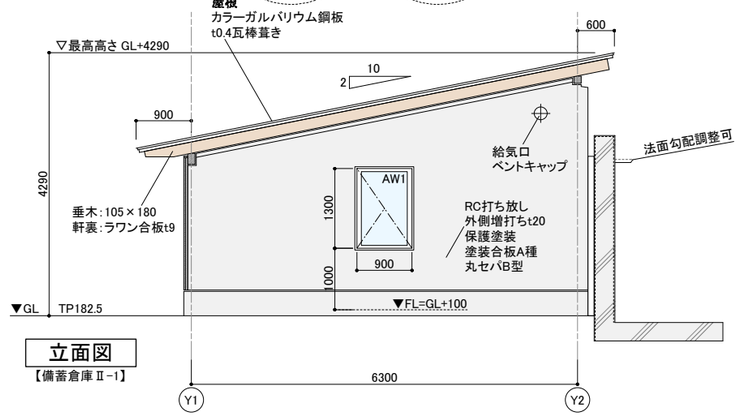
支給木材リスト
倉庫Ⅱ
土台: ひのき120×120
桁・梁: 杉120×270
桁・梁: 杉120×180
桁・梁: 杉120×120
管柱: 杉120×120
垂木: 杉105×180
間柱: 杉45×120
はしご垂木: 杉45×45
断熱材間垂木: 杉45×45
方杖受: ひのき60×120
面戸: 杉45×160
外壁: 杉板t15
額縁: 杉30×120



平面図



立面図



立面図
【備蓄倉庫Ⅱ-1】

新庁舎整備事業 倉庫Ⅱ建設工事

実施図
確申図

KT2-A103

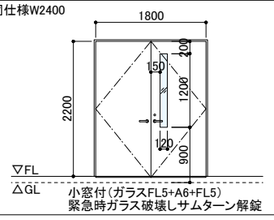
名称 平面図・天井伏図・立面図

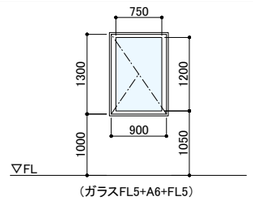
縮尺 1/50(A1) 1/100(A3) 日付 2019.02

一級建築士事務所第12399号(有)香山壽夫建築研究所 東京都文京区本郷2-12-10UT本郷3F 一級建築士第65408号 佐伯和俊
構造:一級建築士事務所 東京都知事登録第56306号 株式会社 KAP 一級建築士第341678号(構造設計一級建築士第9490号) 萩生田秀之

消防法令上の無窓階判定

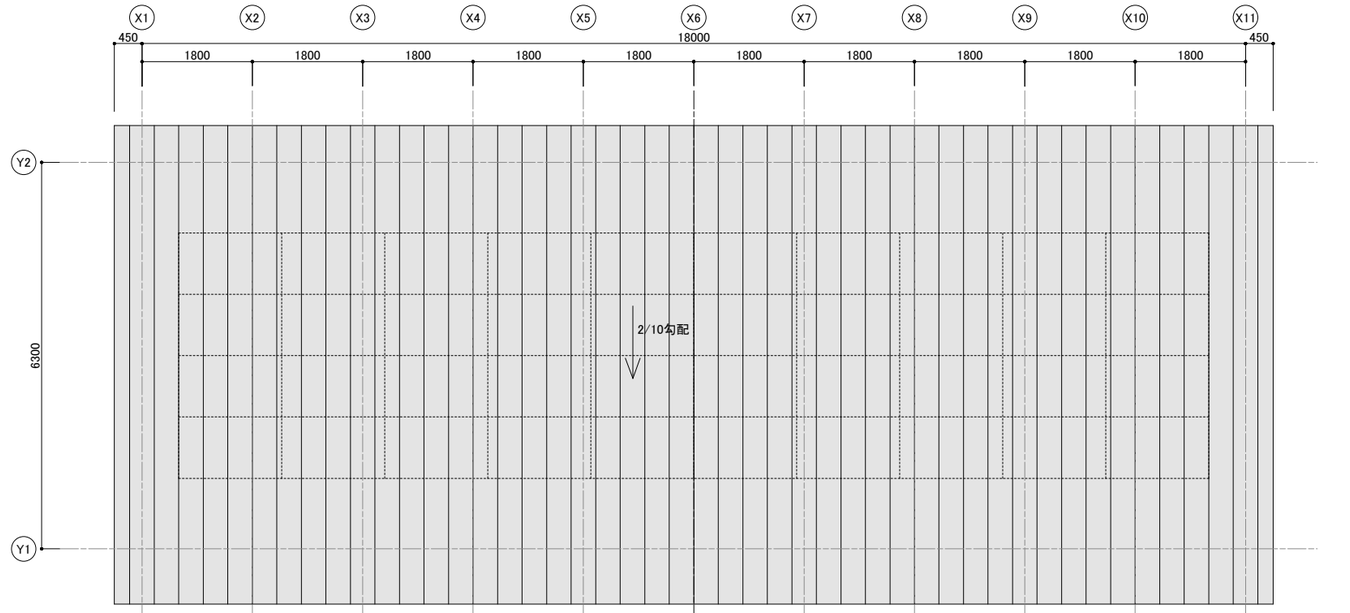
SD1	AW1
SD2：同仕様W2400	



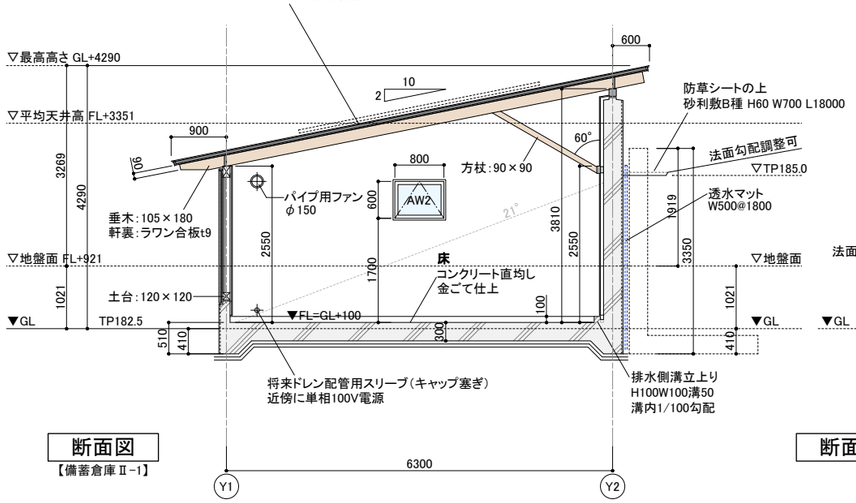


倉庫Ⅱ-1						
建具	種別	数	有効幅	有効高	開口面積	備考
SD1	両開き扉	1	1.800	2.200	3.960	小窓付き
AW1	たてすべり出し窓	1	0.750	1.200	0.900	ガラス部分寸法
合計有効開口面積					4.860㎡	
床面積113.40 ÷ 30 ＝ 3.780㎡					OK（無窓階ではない）	

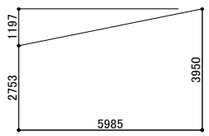
倉庫Ⅱ-2						
建具	種別	数	有効幅	有効高	開口面積	備考
SD2	両開き扉	1	2.400	2.200	5.280	小窓付き
AW1	たてすべり出し窓	1	0.750	1.200	0.900	ガラス部分寸法
合計有効開口面積					6.180㎡	
床面積113.40 ÷ 30 ＝ 3.780㎡					OK（無窓階ではない）	



屋根伏図



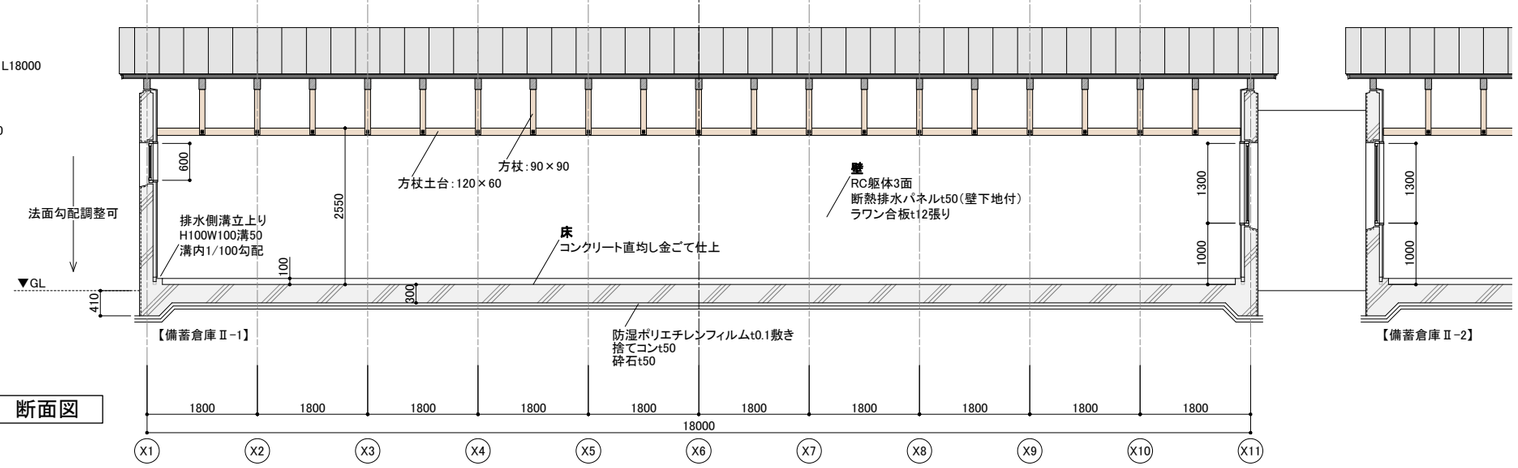
断面図
【備蓄倉庫Ⅱ-1】



平均天井高の算定

$$\frac{(5.985\times3.950)-(5.985\times1.197\times1/2)}{5.985}=\text{平均天井高}3.351\text{m}$$

3.351m×1/3＝1.117m ＞ 0.921m(床面～地盤面)



断面図

【備蓄倉庫Ⅱ-2】

新庁舎整備事業 倉庫Ⅱ建設工事			実施図 / 確申図
KT2-A104	名称 断面図・屋根伏図	変図	
	縮尺 1/50(A1) 1/100(A3) 日付 2019.02		

一級建築士事務所第12399号(有)香山壽夫建築研究所　東京都文京区本郷2-12-10UT本郷3F　一級建築士第65408号　佐伯和俊
構造：一級建築士事務所 東京都知事登録第56306号 株式会社 KAP 一級建築士第341678号（構造設計一級建築士第9490号）　萩生田秀之

建具表

階	記号	使用箇所	数	防火仕様 防音仕様	防火仕様 遮音等級	姿図および寸法 有効W×有効H(mm) (上段)	(下段)	建具枠見込 額縁種別	形式	建具枠種別 扉仕上	ガラス	金物・付属品	備考	非接触型電気錠
1階	SD 1	倉庫Ⅱ-1	1	—				—	両開き 両面フラッシュ	曲げ枠 DP	FL5+A6+FL5	下記共通事項による	消防法動上有効な開口部	
				SAT	—	W1800×H2200								
	SD 2	倉庫Ⅱ-2	1	—				—	両開き 両面フラッシュ	曲げ枠 DP	FL5+A6+FL5	下記共通事項による	消防法動上有効な開口部	
				SAT	—	W2400×H2200								

建具表

階	記号	使用箇所	数	防火仕様 防音仕様	防火仕様 遮音等級	姿図および寸法 有効W×有効H(mm) (上段)	(下段)	建具枠見込 額縁種別	形式	建具枠種別 扉仕上	ガラス	金物・付属品	備考	非接触型電気錠
1階	AW 1	倉庫Ⅱ-1 倉庫Ⅱ-2	2	—				75	たてすべり出し窓		FL5+A6+FL5		消防法動上有効な開口部	
				—	—	800 W900×H1300	W800×H600	木製						
	AW 2	倉庫Ⅱ-1 倉庫Ⅱ-2	2	—				75	突き出し窓		FL5+A6+FL5			
				—	—			木製						

防火戸記号凡例(建具表共通)

特2　特定防火設備(常時閉鎖式扉、令112条第14項第二号適合)
特2S　特定防火設備(随時閉鎖式扉、煙感知器連動、令112条第14項第二号適合)
SS2　特定防火設備(随時閉鎖式シャッター、煙感知器連動、令112条第14項第二号適合)
特1　特定防火設備(常時閉鎖式扉、令112条第14項第一号適合)
特1S　特定防火設備(随時閉鎖式扉、煙感知器連動、令112条第14項第一号適合)
SS1　特定防火設備(随時閉鎖式シャッター、煙感知器連動、令112条第14項第一号適合)
防　防火設備(常時閉鎖式扉、令112条第14項第一号適合)
不燃　自閉式不燃扉

建具共通事項

・建具寸法は有効の内法寸法を示す
・沓摺(SUS)付・戸当たり付き(WDは木製沓摺)
・ドアハンドルはSUS製とする
・外部に面するSDについて
　・外部建具の下枠は水切り付き　クツズリはSUS立上り付タイプ
　・外部建具はフッ素樹脂塗装現場塗(塗装工事)
・ガラスは建設省通達「ガラスを用いた開口部の安全設計指針」によること
・ガラリはSUS製防鳥網付き
・排煙窓のクレセント、ハンドル、オペレーター等の高さはH1500以下とする

SD・SW共通事項

・特記無きSDの金物は下記とする
　片開き戸　ピボットヒンジ、ドアチェック、戸当たり
　　レバーハンドル、本締錠
　親子開き戸　ピボットヒンジ、ドアチェック、戸当たり
　両開き戸　レバーハンドル、本締錠
　　順位調整器、フランス落とし
・室内建具の仕上はSOPまたはEP-G塗装現場塗(塗装工事)
・外部建具の仕上は全てDP:耐候性塗装(フッ素樹脂など)

ガラス共通事項

・

・随時閉鎖式防火戸について
　1枚の扉の面積が3㎡を超える場合は子扉付 とする
・防音建具について
　・枠と扉の剛性と精度を充分にとること
　・吊り込み精度をあげると共にスペーサーを取り付けることにより
　　ゴムの圧着度を調整すること
　・扉枠と躯体の隙間はモルタルで充填すること
　・扉枠は全てモルタル充填または ロックウール充填とする
　・沓ずりは全てモルタル充填とする
　・扉はロックウール充填を原則とする

LSD共通事項

・軽量鋼製建具の戸先形状はエッジレスタイプとし、引戸はエアダンパー付きと標準とする
・ユニバーサルデザインスイッチは「HDS-4i/ナブコ自動ドア」同等品とする
・乳白色明かり窓は「UCW-201-100-45/UNION」同等品とする

AW・AG・ACW共通事項

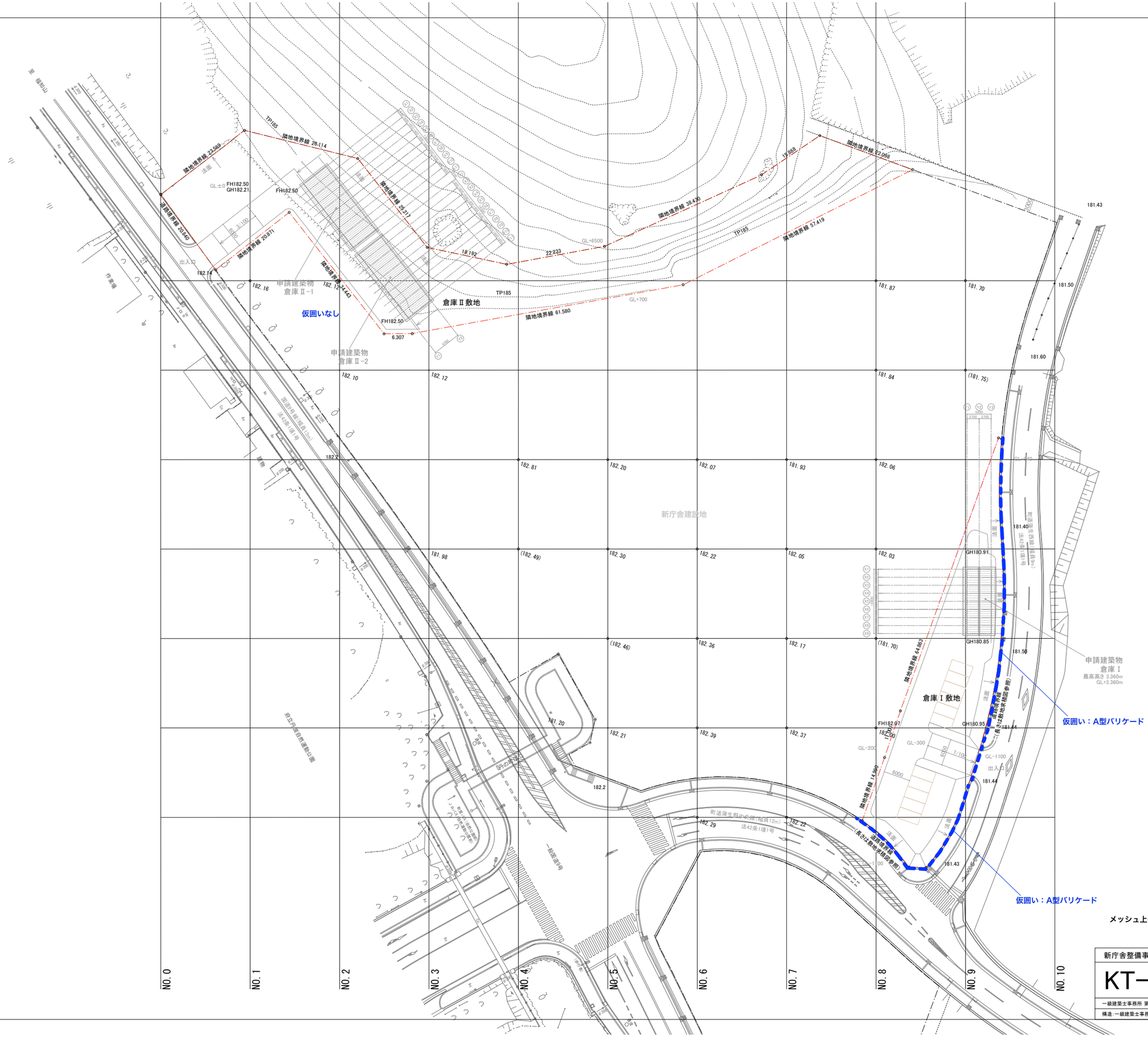
・特記無き限り
　種別、耐風圧性、気密性、水密性は特記仕様書に基づく
　表面仕上は特記仕様書に基づく　附属金物一式とも
・「一般ビル用サッシ」はMTG70／三協アルミ同等品とする

その他

・WD/WWの戸先は大手とし、面材がOSCL塗装の場合は竪木OCCLとし、その他の場合は木製OPとする

新庁舎整備事業　倉庫Ⅱ建設工事			実施図 / 確申図
KT2-A105	名称 建具表	番図	
	縮尺 1/100(A1) 1/200(A3)	日付 2019.02	

一級建築士事務所第12399号(有)春山喜夫建築研究所　東京都文京区本郷2-12-10UT本郷3F　一級建築士第65408号　佐伯和俊
構造:一級建築士事務所 東京都知事登録第56306号 株式会社 KAP 一級建築士第341678号(構造設計一級建築士第9490号)　萩生田秀之



メッシュ上の数値は特記なき限りTP表示

新庁舎整備事業　倉庫ⅠⅡ建設工事			実施図 / 確申図
KT−参001	名称	現況レベル図/仮設計画図	
	縮尺	1/400(A1) 1/800(A3)	日付 2019.02

一級建築士事務所 第12399号(有)香山壽夫建築研究所 東京都文京区本郷2-12-10UT本郷3F一級建築士第65408号 佐伯和俊

構造:一級建築士事務所 第56306号 株式会社 KAP 一級建築士第341678号(構造設計一級建築士第9490号) 萩生田秀之